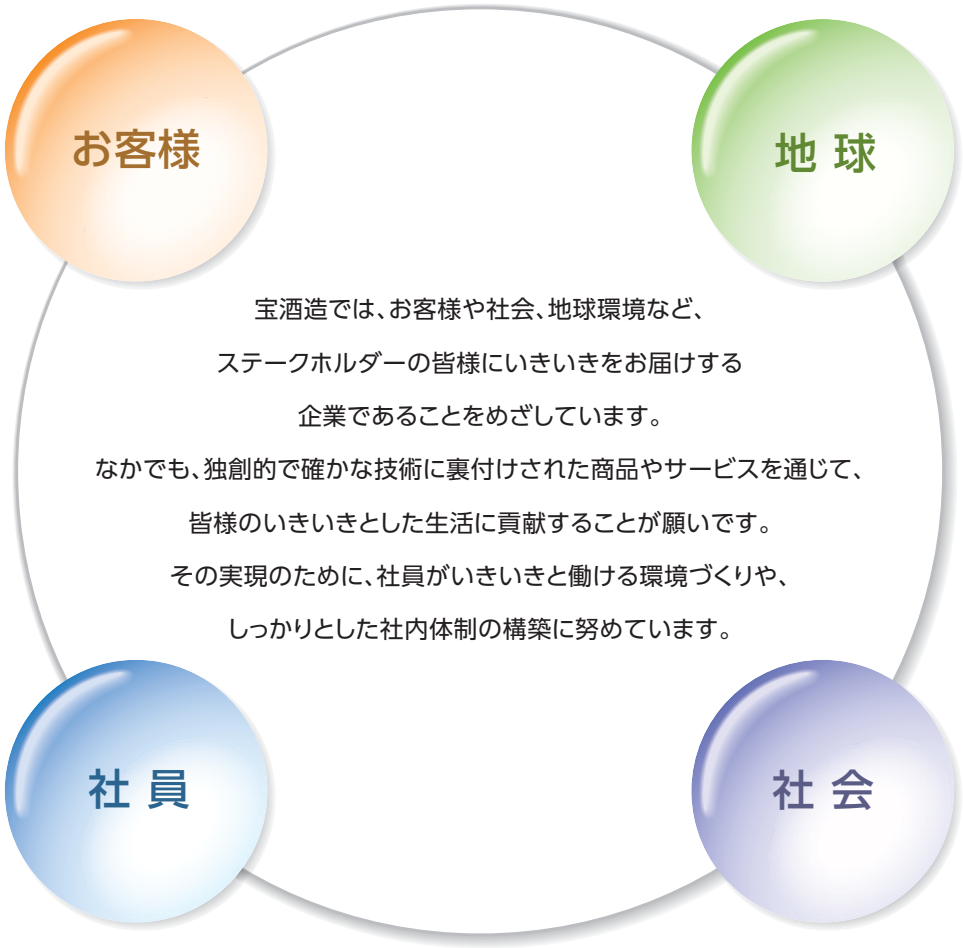
皆様の「いきいき」は私たちの「いきいき」

緑字企業報告書 2016

CSR Report

宝酒造株式会社



■「緑字企業」「緑字企業報告書」とは

1998年、当社は独自の「ECO(エコ)」という指標を使った「緑字(りょくじ)決算」を開始し「緑字決算報告書」(環境報告書)の中で公表するとともに、“環境にやさしい企業=「緑字企業」をめざします。”と宣言しました。

2005年より、「緑字企業」を「環境だけでなく、お客様、お取引先様など、すべての関係者にとってやさしい企業」と定義し直し、環境以外の社会的な活動についても詳しくお伝えするべく、内容を一新し、名称も「緑字企業報告書」(CSR報告書)に変更し発行しています。

■ 財務情報の詳細について

財務情報の詳細につきましては、宝ホールディングス株式会社のアニュアルレポートをご覧ください。なお、宝ホールディングスのウェブサイト(http://www.takara.co.jp/)ではアニュアルレポートだけでなく、決算短信、有価証券報告書などの情報もご覧いただけます。

A:IR情報

■ 緑字企業報告書の詳細について

本報告書に マークを記載している情報につきましては、下記のアドレスからご覧いただけます。また、本報告書の内容はウェブサイトでも公開しており、最新版だけでなく過去の報告書もご覧いただけます。

http://www.takarashuzo.co.jp/environment/greenpdf/pdf2016.htm

1～8 ・・・詳細資料
A～I ・・・IR情報などの参考ページ

■ 表紙について

この写真は、当社の主催する環境教育プログラム宝酒造「田んぼの学校」<収穫編>(P.11参照)で撮影されたもので、生徒の女の子が刈り取った稲束を持っているところです。田んぼの学校に参加した子どもたちのいきいきとした表情から私たちは、「皆様にいきいきを届ける企業」であり続けたいという想いを重ね合わせ、表紙の写真を選定しました。

目次

トップメッセージ 03
企業概要 05
事業紹介 07
〈特集〉宝酒造の社会貢献活動 2つの環境教育活動 09

お客様の「いきいき」のために
安全・安心な品質への責任 15
お客様との対話 17
お客様の健康への配慮 20

地球の「いきいき」のために
環境活動の基本的な考え方と体制 21
空容器問題への取り組み 22
環境負荷削減の取り組み 23
環境会計 25
タカラ・ハーモニストファンド 27

社会の「いきいき」のために
社会貢献活動 28
地域への貢献 30

社員の「いきいき」のために
ワーク・ライフ・バランス 31
働きやすい職場づくり 32

信頼される企業であるために
コンプライアンス 34
コーポレート・ガバナンス 37

宝酒造の歴史 39
第三者意見 41
編集方針・編集後記 42

トップメッセージ

自然の恵みを大切に、安全・安心な商品やサービスの提供を通じて社会に貢献します。

宝酒造の主たる商品であるお酒は、水や穀物などの自然の恵みをもとに、微生物の発酵という自然の働きを得て造りだされます。このため、生物が生き生きと育まれる豊かな自然環境が保たれることは、当社が事業活動を行ううえで重要な要素であると考えています。また、商品が消費されたあとに発生する空容器が、社会に大きな環境負荷を与えていることも重要な事実として捉えています。そのような理由から当社は、「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けています。

当社の「自然保護」への取り組みは、1979(昭和54)年のサケを川に戻す市民運動を支援したカムバック・サーモンキャンペーンに始まり、企業の自然保護活動支援の先駆けとなりました。1985(昭和60)年には公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立し、30余年にわたり継続的に自然保護活動・研究の支援を行っています。また、2004(平成16)年より開催している宝酒造「田んぼの学校」は、次世代を担う子どもたちに、自然の恵みの大切さや命のつながりを学んでもらう環境教育活動として取り組んでいます。

一方、当社が事業を展開するうえで避けて通れない「空容器問題」については、一般的なリデュース、リユース、リサイクルの3Rに、発生そのものを回避するリフューズを加えた4Rの考え方を取り入れています。この考え方のもと、容器の軽量化や、従来からの一升びんのリユースシステムの利用、リサイクルしやすい容器の採用といった取り組みに加えて、中身だけをご購入いただく焼酎のはかり売りを展開するなど、環境配慮型商品の開発にも積極的に取り組んでいます。

この緑字企業報告書は、環境に関する取り組みに加え、「お客様」の視点からの安全・安心な品質への取り組み、「社会」の視点からの社会貢献活動、「社員」の視点からの労働環境整備の取り組みなど、さまざまなステークホルダーの「いきいき」を実現するための当社の取り組みをご紹介したCSR報告書です。また、特集ページでは、宝酒造の社会貢献活動として、「田んぼの学校」と「エコの学校」という2つの環境教育活動の取り組みについて、詳しくご紹介しています。

当社は、自然の恵みを大切に、技術に裏付けられた安全・安心な商品やサービスをお届けし、人々の暮らしを豊かなものにしていくことで社会に貢献してまいりたいと考えています。

この報告書によって、当社の考え方と活動をご理解いただき、ご意見を承ることができれば幸いです。

宝酒造株式会社
取締役社長
柿本敏男

企業理念

自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて
人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します。

行動規準

消費者のいきいきは、私のいきいき

ーすべての行動は消費者の視点からスタートしますー

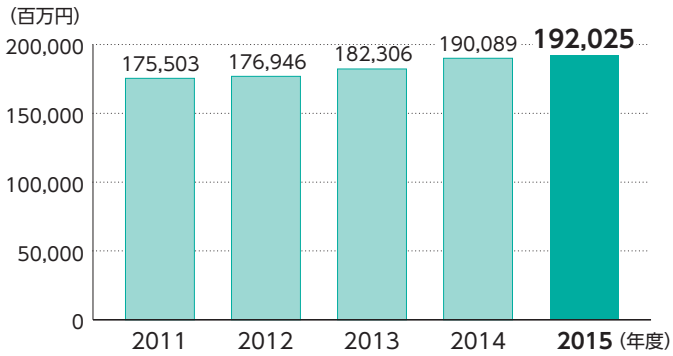
1. パートナーと協力し、自ら率先して仕事の質を高めます。
2. いつも「なぜ?」と問いかけ、変革をすすめます。
3. 自信と誇りにあふれるプロをめざし、スキルアップに努めます。
4. ユニークな発想で、摩擦を恐れず議論します。
5. 情報感度を磨き、目標に向かって迅速にチャレンジします。
6. 自己の言動に責任をもち、法・社会倫理を守り、自然との共生に取り組みます。

宝酒造株式会社 概要

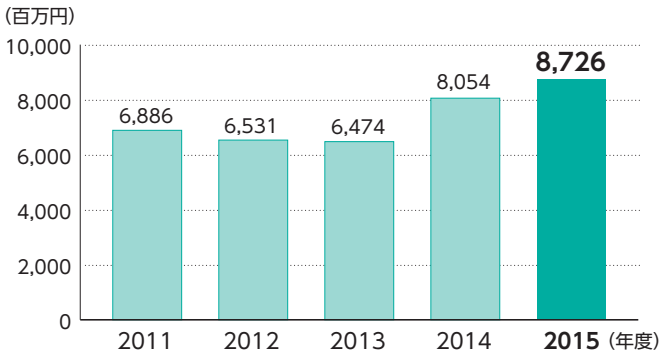
宝酒造株式会社は、持株会社である宝ホールディングス株式会社の傘下にあり、国内酒類事業、調味料・酒精事業、海外事業などを展開しています。

商　　号	宝酒造株式会社 (英文名:TAKARA SHUZO CO.,LTD.)
代 表 者	取締役社長　柿本 敏男
設立年月日	2002年4月1日(持株会社体制移行により発足)
資 本 金	1,000百万円
創 業 年	1842年
本店所在地	京都市伏見区竹中町609番地
本社事務所	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
決 算 期	毎年3月31日
主な事業	酒類、調味料、酒精の製造・販売
事 務 所	東京事務所(東京)
支　　社	北海道支社(札幌)・東北支社(仙台)・首都圏支社(東京)・西関東支社(横浜)・関信越支社(高崎)・東海支社(名古屋)・京滋北陸支社(京都)・西日本支社(大阪)・九州支社(福岡)
工　　場	松戸工場(松戸)・楠工場(四日市)・伏見工場(京都)・白壁蔵(神戸)・黒壁蔵(高鍋)・島原工場(島原)
物流センター	東日本物流センター(松戸)・西日本物流センター(京田辺)

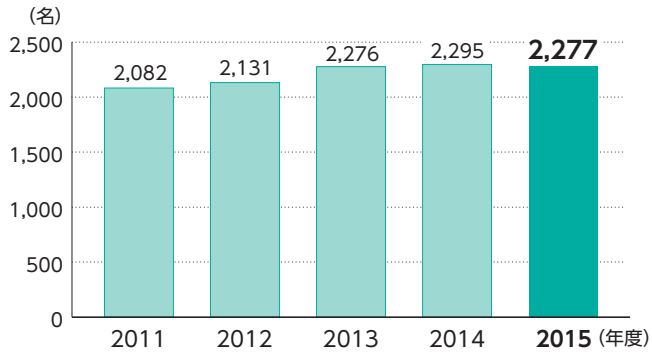
● 宝酒造グループ売上高



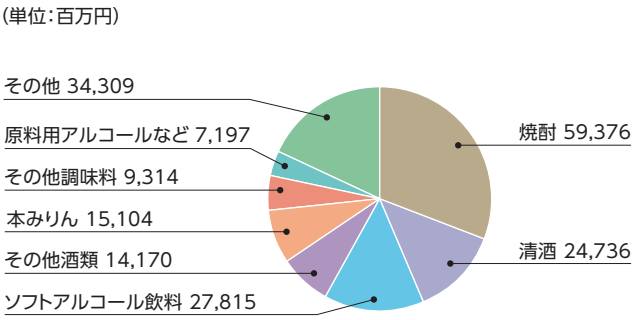
● 宝酒造グループ経常利益



● 宝酒造グループ社員数 (3月31日現在)



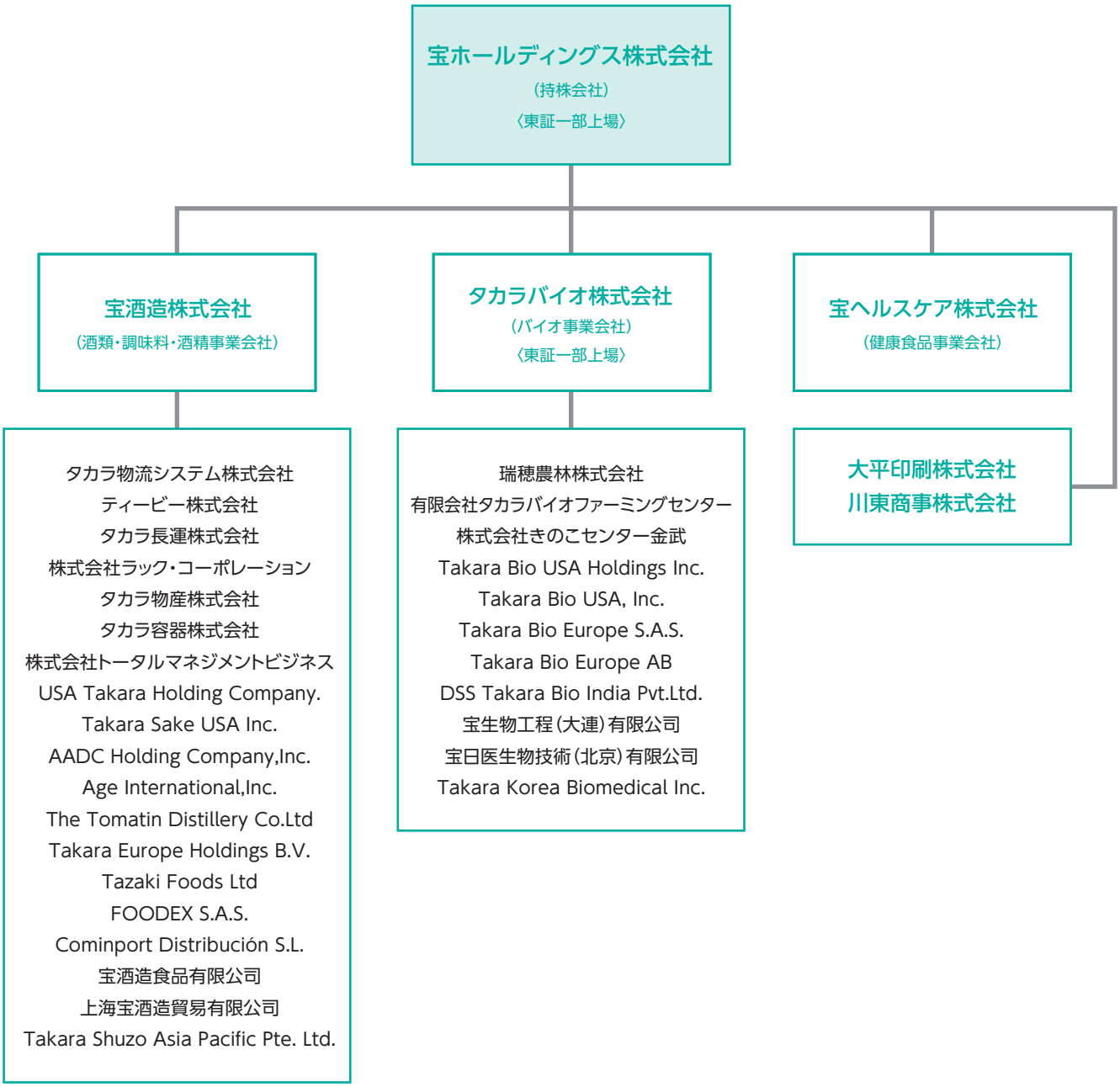
● 宝酒造グループカテゴリー別売上高



宝ホールディングス株式会社 概要

商　　号	宝ホールディングス株式会社 （英文名：TAKARA HOLDINGS INC.）
代 表 者	取締役社長　柿本 敏男
設立年月日	1925年9月6日
資 本 金	13,226百万円
本店所在地	京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20番地
決 算 期	毎年3月31日
事 業 内 容	持株会社
上 場 市 場	東京証券取引所第一部

● 宝ホールディングスグループ企業の構成図



事業紹介

創業以来、伝統を守りながら、時代に合った新しい「おいしさ」をお届けしています。

■焼酎

長年培ってきた独自の蒸留技術や貯蔵技術によって、時代が求める焼酎を追求し、市場を創造し続けることで、焼酎市場の発展に貢献してきました。

甲類焼酎では、伝統と安心の甲類焼酎No.1ブランド “宝焼酎”、樽貯蔵熟成酒を3%ブレンドしたひとクラス上の宝焼酎“極上<宝焼酎>”、発売から30年以上のロングセラーを続ける“宝焼酎「純」”など、独自の品質と味わいを持つブランドによりトップシェアを堅持しています。また、本格焼酎では芋100%にこだわった“全量芋焼酎「一刻者(いっこもん)」”、麦本来の味わいを追求した“本格麦焼酎「知心剣(しらしんけん)」”をはじめとするこだわり商品、日常の晩酌ニーズにきめ細かく対応する「よかいち」など、独自の技術によるオリジナリティのある商品を開発・育成しています。

■清酒

松竹梅は、「よろこびの清酒」として慶祝・贈答市場におけるトップブランドの地位を確立しています。

2001年には「本当に旨くてよい酒とは何か」を徹底的に追求するため、伝統的な手づくりの原理を再現した最新鋭の設備と、人の手で行う酒造りの両方をあわせもった製造拠点「松竹梅白壁蔵(しらかべぐら)」を完成させ、新感覚のスパークリング清酒“松竹梅白壁蔵「澪(みお)」”や“松竹梅「白壁蔵」<生酛(きもと)純米>”などの高品質酒を送り出しています。

また2011年には、二段酵母仕込みで「コクがあってすっきり辛口」の“松竹梅「天」”に新容器パウチパックを発売。お客様の多様なニーズに応えています。

業務市場においては“松竹梅「豪快」”が多くのお客様からご支持をいただいています。

これからも松竹梅は造りや原材料にこだわり、新しい商品を提案していきます。

■ソフトアルコール飲料

下町の大衆酒場で愛され続ける辛口な味わいを追求した“タカラ「焼酎ハイボール」”や、1984年に日本初の缶入りチューハイとして衝撃的なデビューを飾って以来、30年以上にわたりご愛飲いただいている“タカラcanチューハイ”など確かな技術に裏打ちされた独自のおいしさが多くのお客様からご支持をいただいています。

また、業界初となる果汁を使用しながらも糖質ゼロ、プリン体ゼロ、甘味料ゼロ、香料ゼロ、着色料ゼロと「5つのゼロ」を実現した“タカラ果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”や今までにない味わいを実現した “タカラ「ネオ酒場サワー」”などお客様に新しいおいしさをお届けする商品の開発・育成に取り組んでいきます。

■輸入酒

40年の長きにわたり、お客様の高いご支持をいただいている信頼のブランド“紹興酒「塔牌（とうはい）」”は、全量手づくりにこだわった伝統製法による深い味わいと万全の品質管理によって日本の中国酒市場をリードしてきました。

また、シングルバレルバーボンの“ブラントン”、スコッチウイスキーの“アンティクァリー”、オランダのリキュール“グリーン・バナナ”、中国の“桂花陳酒”など、世界各地から選りすぐりのブランドを取り揃えています。今後も、お客様それぞれの嗜好や飲用シーンにふさわしい、高品質で価値ある世界のお酒をご提案していきます。

■調味料（家庭用・加工業務用）

本みりんのトップブランドとして日本の食文化とともに進化・発展を続けてきた“タカラ本みりん”や、食塩0（ゼロ）の料理清酒“タカラ「料理のための清酒」”など、「お酒のチカラでもっとおいしく」をテーマに、料理をおいしく、食卓を豊かにするさまざまな酒類調味料をご提案しています。

また、加工業務用市場に向けては、惣菜や加工食品などに適した酒類調味料「京寶」ブランドやだし調味料などの商品を取り揃えるとともに、食品分析や調理効果研究、レシピ開発などお客様とともにさまざまな課題解決に取り組んでいきます。

■酒精（原料用アルコール）

連続式蒸留機によって原料用アルコールを製造し、全国の清酒、焼酎、リキュールメーカーへ販売しています。また、原料用アルコールの販売を行うだけでなく、情報や周辺商品をご提供することで酒類メーカーとのパートナーシップを深めています。

お酒造りの原点にかかわって業界の発展に寄与し、日本のお酒文化を守っていきたい。常にそんなこだわりを持って取り組んでいます。

一方で、これまで培った技術力と信頼で、味噌などの食品や医薬品・化粧品・化学品などの業界にも原料として使用されるアルコールの製造・販売にも注力しています。

■海外

近年、健康志向の高まりによりおいしくヘルシーな日本食が世界中で広がりを見せている中、“清酒「松竹梅」”や“タカラ本みりん”をはじめとする宝酒造製品の輸出および現地での製造・販売を行う海外酒類事業と海外の日本食レストランや小売店に日本食材などを販売する海外日本食材卸事業を2つの柱として事業を展開しています。

海外酒類事業は米国全土および欧州向けに清酒やみりんなどを製造・販売する米国宝酒造、中国で清酒や本みりん、焼酎の製造・販売を行う宝酒造食品、バーボンウイスキー“ブラントン”を扱うエイジ・インターナショナル社、スコッチウイスキーの製造・販売を行うトマーチン社の4社を軸に、事業展開を積極的に進めています。

また、海外日本食材卸事業はフランスのフーデックス社やイギリスのタザキフーズ社、スペインのコミンポート社をパートナーに迎えるとともに、長年の協力関係にあるアメリカのミューチャルトレーディング社との連携を強化するなど、世界での日本食材卸ネットワークの構築を図り、事業の拡大を進めています。

海外酒類事業と海外日本食材卸事業はそれぞれの事業拡大とともに、両事業のシナジーを発揮させ、日本の食文化をさらに世界に広めるとともに、海外市場における新たな販路拡大に取り組んでいきます。

米国宝酒造

フーデックス社

特集

宝酒造の社会貢献活動
2つの環境教育活動
～宝酒造「田んぼの学校」＆宝酒造「エコの学校」～

宝酒造の環境活動では事業活動と関係の深い「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを環境活動の2本柱と位置付けています。ここでは、次世代を担う子どもたちへの2つの環境教育活動、宝酒造「田んぼの学校」と「エコの学校」を紹介します。

当社は、自然の恩恵を受けて、焼酎や清酒、本みりんなどの調味料を長年に渡り造ってきました。このため、昔から自然を愛し大切にする気持ちが社員に受け継がれてきており、企業理念にも「自然との調和」を謳っています。

例えば、現在のように環境に関する企業の社会貢献活動が一般化していなかった1979年に、「カムバック・サーモン・キャンペーン」を開始しています。その後も、「公益信託タカラ・ハーモニストファンド」の設立をはじめ、「日本の松を守ろうキャンペーン」や「四万十川の清流を守ろうキャンペーン」などさまざまな自然保護活動を行ってきました。

一方、当社の商品はガラスびんやPETボトル、紙パックなどさまざまな容器に詰めて販売していますが、商品が消費された後に発生する空容器が家庭から出るごみの約6割を占めており社会に大きな環境負荷を与えています。このため、早くから容器の3R（Reduce:減量化、Reuse:再使用、Recycle:再資源化）を考慮した商品開発を進めるとともに、当社独自の取り組みとして新たな容器を必要としない焼酎のはかり売り（Refuse:発生回避）を加えた「4Rの取り組み」を進めています。

21世紀に入り、これまでの活動に加えて新しく取り組もうと考えたのが、次世代を担う子どもたちへの環境教育です。ここでも、環境活動の2本柱それぞれに対して、宝酒造「田んぼの学校」と「エコの学校」という2つの環境教育活動を実施しています。

環境活動は何より続けることが大切だと思っています。今後も、「自然保護」と「空容器問題」への取り組みを中心に、さまざまな環境活動を末長く続けて行きたいと考えています。

宝酒造株式会社 取締役（環境広報担当）　鷲野 稔

環境教育活動を実施するにあたって考えたこと

事業活動と関係が深いテーマを選ぶ

実施する環境教育のテーマの選定にあたっては、事業活動と関係が深いものを選びました。環境活動において大切なことの一つは、一過性の活動で終わらせず長く続けることですが、それは環境教育においても同じことです。企業にとって、事業活動と関係が深いテーマは社内外の理解が得やすく、その分その活動を長く続けやすくなります。このような考えから、当社の環境活動の2本柱と位置付けている「自然保護」と「空容器問題」に関連するテーマに選びました。

「自然保護」をテーマとした環境教育の舞台として“田んぼ”を選びました。

これは、農薬を使用していない田んぼは生物多様性に富んでいて環境教育の場としてふさわしいことが第一の理由ですが、社名の宝が“田から”に由来することも田んぼを選んだ理由です。

“田んぼ”は、当社らしい環境教育の場だと思っています。

五感を使って体感する（宝酒造「田んぼの学校」）

インターネットの普及により情報の入手が容易な社会となり、さまざまな生き物や生態系の情報も簡単に得られるようになりました。一方で、都市部に住む子どもたちにとって日常生活で触れることのできる生き物の種類は昔と比べて非常に少なくなっています。

このような背景から、宝酒造「田んぼの学校」の企画にあたっては、生き物の名前などの知識の習得より、五感を使って感じ取ってもらうことを重視しました。ぬるっとしたカエルに触ったり、植物の香りを嗅いだり、口に含んで味わってみたり。また、稲作体験においても、土の感触を感じ取ってもらうため、長靴を履かずに田んぼに入ってもらっています。

開催地域に合わせた授業内容（宝酒造「エコの学校」）

ごみ問題の現状は、各自治体により異なります。また、ごみの分別方法やごみを減らす方法の教え方についても、自治体によって異なっています。例えば、ごみの減量方法について、リデュース、リユース、リサイクルの3Rを教えている地域や、3Rにリフューズを加えた4Rの地域、さらにリペア（修理）を加えた5Rの地域などさまざまです。このため、子どもたちが混乱しないよう、それぞれの地域に合わせた授業内容にする必要があります。

このような考えから、宝酒造「エコの学校」は、自治体や環境学習施設との共催で、それぞれの地域に合った授業内容となるよう事前準備を行っています。

宝酒造「田んぼの学校」

宝酒造「田んぼの学校」は、小学生とそのご家族を対象とした環境教育&食育プログラムで、2004年から毎年開催しています。5月から12月までの約半年間に計4回の授業を行います。最初の3回は京都府南丹市園部町の自然豊かな里山で開催します。主な授業は、お米作り体験と田んぼ周辺の植物や昆虫などの生き物観察（自然観察）です。4回目は、京都市内のクッキングスクールで、みんなで育てたお米（もち米）やもち米から造られる本みりんを使って親子で料理をしたり、本みりんの調理効果などについて学びます。

B:宝酒造 田んぼの学校

春―田植え編

田植え体験では、20cmほどに育ったもち米の苗をひとり2列ずつ植えていきます。自然観察では、「～五感を使って～はじめよう自然観察」をテーマに2～3家族ずつの班に分かれて、田んぼの周辺の生き物を観察します。

夏―草取り編

草取り体験では、生長の妨げとなる草を抜いたり田んぼの中に埋めたりして、稲が育ちやすい環境をつくります。自然観察では、「～五感を使って～ 田んぼとそのまわりの生きものたち」をテーマに、マツモムシやコオイムシなどの水生生物をはじめ豊富な生き物たちを観察します。

秋―収穫編

稲刈り体験では、1mを超える大きさに育った稲をカマで刈り取ります。また、千歯こきやこきばしによる脱穀も体験します。自然観察では、「～五感を使って～いのちをつなぐ」をテーマに、いろいろな方法で子孫を残す生き物の知恵を学びます。

冬―恵み編

料理教室では、収穫したもち米や本みりんなどを使って親子で料理をつくります。大人を対象とした「みりんの楽校（がっこう）」の授業では、本みりんや料理清酒について知識を深め、その間、子どもは「田んぼの学校特製本みりん」に貼るラベルを作ります。

宝酒造「エコの学校」

宝酒造「エコの学校」は、小学3〜6年生とそのご家族を対象とした環境教育プログラムで、2012年から毎年開催しています。2015年度は京都市・神戸市・東京都江東区の3都市の環境学習施設で各2回ずつ開催しました。1回150分、3時限構成のプログラムで、自分たちが住む街のごみ問題の現状やごみを減らす方法についてリサイクル体験などを交えながら楽しく学びます。

C:宝酒造 エコの学校

1時限目

1時限目は、自分たちが住む街のごみの現状について学びます。

ごみの種類や量はどう変化してきたのか、ごみの処理にどれくらい税金が使われているのか、ごみの分別はどうしたら良いのかなど、環境学習施設を見学しながら講師の説明を受けます。

2時限目

2時限目は、ごみを減らす方法について学びます。

エコバックやマイボトル、マイ箸の利用、詰め替え品や簡易包装品の購入など、生活の中で誰でも簡単にできるごみを減らす方法を学びます。

3時限目

3時限目は、あまりリサイクルが進んでいないアルミ付き紙パック(酒パック)のリサイクル体験です。アルミ付き紙パックからパルプを取り出し、これを材料にして紙漉(す)きを行い、オリジナル絵はがきを作ります。

スマートフォンで、
「田んぼの学校」全4回の活動レポートを
ダイジェスト動画でご覧いただけます。

http://www.takarashuzo.co.jp/promo/env/03/

スマートフォンで、
「エコの学校」の動画レポートを
ご覧いただけます。

http://www.takarashuzo.co.jp/promo/env/04/

社外の協力を得て運営

環境教育活動の実施にあたっては、社外の方々の協力を得て運営しています。

例えば、宝酒造「田んぼの学校」では、企業である当社主催のもと、地元農家・行政・NPO法人・大学の4者のご協力をいただいています。

地元農家の方々には稲作体験の講師を、行政では京都府の後援をいただいています。NPO法人は、NPO法人森の学校とNPO法人自然観察指導員京都連絡会の2つの団体の協力を得ており、それぞれ企画・運営支援や自然観察の講師をお願いしています。さらに、地元大学の学生には自然観察の補助や最終回の恵み編における食育授業を行ってもらっています。また、授業内容は毎年農家やNPO法人の方々と相談しながら見直しを行っています。

● 「田んぼの学校」の場合

VOICE

私たちは、2004年の開校当初から関わらせていただいています。その理由の第一は、企業精神の根幹に自然への深い理解があることと環境問題への先進的で継続的な取り組み姿勢があることです。第二は、環境教育のステージが「田んぼ」であるということです。「田んぼ」なら日本中に数多くあります。身近な「田んぼ」での環境教育の手法がひろまれば、より多くの子どもたちが、それを体験できることになると考えたからです。その成果の一つは開校の年から出てきました。参加したお子様の希望で、家族だけの自然観察を始めたということをお聞きしました。

NPO法人森の学校　代表 **佐伯 剛正** 氏

環境教育プログラムにおける工夫

長く記憶に留める工夫

宝酒造「田んぼの学校」の授業の終わりには、「ふりかえり」の時間を設けています。これは、その日の体験の中から最も印象に残ったことを絵や文章で描くことで心に深く刻み込むものです。一過性の記憶に終わらせず、少しでもこの日感じたことが長く記憶に残ることを願って、このような時間を設けています。

「ふりかえり」授業の様子

みんなの前で発表

自宅でも体験できるように

宝酒造「エコの学校」の授業の中で一番人気は3時限目の紙漉(す)き体験です。ちょっとしたコツを覚えれば、簡単にオリジナルの絵はがきを作れるのが人気の理由の一つです。この紙漉(す)きを「エコの学校」が終わった後も自宅でできるよう参加家族には「紙漉(す)きキット」と手順書をプレゼントしています。

紙漉きキットと手順書

収穫したもち米で造った本みりんをプレゼント

宝酒造「田んぼの学校」では、収穫したもち米を使って、当社の工場で特製の本みりんを造ります。子どもたちが両親への感謝の気持ちをこめて手づくりしたオリジナルラベルを貼って、参加者のもとに届けます。参加者からは、「娘が調理を手伝うようになった」などのお便りをいただいています。

田んぼの学校特製本みりん

「おうちで田んぼ体験キット」をプレゼント

宝酒造「田んぼの学校」は毎回たくさんの応募をいただくため、抽選で参加家族を決めています。残念ながら落選されたご家族にはお米作りの疑似体験をしていただけるよう「おうちで田んぼ体験キット」(バケツ稲)を作成し配布しています。また、このキットは落選者以外にも、希望される一般の方にもプレゼントしています。

おうちで田んぼ体験キット

Column

環境教育プログラムがさまざまな賞を受賞

宝酒造「田んぼの学校」はその活動内容が評価され、2014年に第1回「青少年の体験活動推進企業表彰」(文部科学省)で審査委員会特別賞を、2011年には第9回企業フィランソロピー大賞特別賞を受賞しました。

お客様の「いきいき」のために

安全・安心な品質への責任

商品企画から製造・販売に至るまで、すべてのプロセスにおいて、
お客様に安全・安心な商品をお届けできるよう万全を期しています。

品質への取り組み

原料と商品の品質管理・確認を徹底

宝酒造は2015年に松戸工場、楠工場、伏見工場において、食品安全マネジメントの国際規格FSSC22000の認証を取得しました。FSSC22000(Food Safety System Certification)は、食品安全を確保する衛生管理手法であるHACCPに品質に関する継続的な改善システムであるISO9001の考えを取り込んだISO22000に、設備の構造、レイアウトや洗浄、殺菌など一般衛生管理の具体的要求事項を規定したISO/TS22002-1(前提条件プログラム)、さらに食品安全教育をはじめとした従業員の管理などの追加要求事項を加えたシステムです。食品安全に関する最も厳格な国際規格の一つです。

今回認証を取得した3工場に加えて白壁蔵、黒壁蔵、島原工場についても認証取得に向けて取り組みを進めています。今後もこのシステムを維持・運用し継続的に改善していくことで、食品安全・品質管理に万全を期し、お客様に安全・安心で魅力ある製品を提供していきます。

商品企画

商品企画にあたっては、日々の営業活動による情報収集に加えて、消費者アンケートやグループインタビューも実施しています。味わいや安全・安心に関するお客様の潜在的なニーズ、こだわりをキャッチすることや、自社の独自技術の市場適合性を確認することによって、オリジナリティのある商品を提供しています。

確実な品質設計の実施

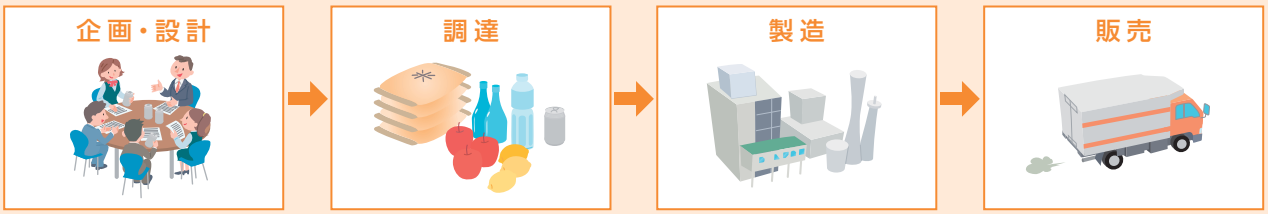
設計段階では、品質規格、商品の安全性から容器・包装品、製造工程に至る商品の設計内容すべてに対し、デザインレビュー(設計審査)の手法を用いて適法性や妥当性を確認しています。

こうして「不良」となりうる可能性を設計段階で極力排除し、万全な品質設計であることを確認した上で、商品化します。

安全な原料の調達

調達ルートがすべて間違いなく確認できる原料、もしくは品質保証書において品質・安全性・適法性が確認できる原料のみを採用するようにしています。

商品企画から販売までの取り組み



設計審査
- 安全性・適法性・品質の確認
- わかりやすい表示の追求

原材料調査
- 品質情報の入手
- 安全性の確認

品質管理
- 衛生的環境での製造
- 検査・分析の徹底
- ISO9001による品質管理

鮮度管理
- 適正な在庫管理

原料分析による安全確認

一部の輸入原料や農産物原料に対しては、前述の取り組みに加え、残留農薬、重金属などの分析を実施し、安全性を確認しています。

原料分析に際しては、専門分析機関と同等レベルの高性能な分析機器（LC-MS/MS※1・GC-MS※2など）を分析センターと主力工場に配備しています。分析機器には、グループ企業であるタカラバイオが販売する商品もあり、高度な分析技術を有する宝グループならではの強みを活かし、原料の安全性を確認しています。

※1 LC-MS/MS:高速液体クロマトグラフィ（HPLC）と質量分析計（MS）を組み合わせた分析装置。主に不揮発性の食品成分、農薬成分などについて、多成分を高感度に定量分析することができます。

※2 GC-MS:ガスクロマトグラフィ（GC）と質量分析計（MS）を組み合わせた分析装置。主に揮発性のにおい成分、異臭成分などについて、多成分を高感度に定量分析することができます。

分析の様子

放射能汚染への対応

福島第一原発事故に伴う放射能汚染への対応として、国産原材料については、放射性物質の基準値への適合を確認した上で調達しています。また、念のため、国産原材料の自社による検査を並行して実施しています。さらに、関東・東北エリアの生産工場においては、継続的に製造用水・製品の放射性セシウムをモニタリングし、基準値への適合を確認しています。

衛生的環境での製造と検査

工場の建屋内は清浄度別にゾーンを分けています。充填室など最も高度な清浄性が要求される作業区域においては、異物混入が発生しないようにクリーンルーム仕様を採用。作業者は専用の無塵服（むじんふく）を着用し、エアシャワー室で付着異物を除去してから入室しています。作業者がゾーンを移動する際は、必ず作業着、作業靴を取り換え、ゾーンごとの清浄度を確保しています。製造場内への不要物の持ち込みは禁止されています。

充填後は、自動検査装置による異物検査や印字検査、検査員による目視検査や官能検査、最新の分析装置を利用した成分分析を実施して、商品の安全と品質を確保しています。

製造後の品質管理

各工程での厳しい品質検査に合格した商品は、製造後ただちに物流センター（東西2カ所）に転送され、そこから出荷されます。

物流センターでは、パレットごとに貼付したバーコードによって、製造ライン、製造日時などの情報を管理しています。製造履歴を管理することで商品の品質情報を迅速に確認できる体制を整えています。

パレットに貼付したバーコードによる製品情報管理

お客様との対話

お客様に良質の商品とサービスをお届けし、信頼とご期待にお応えできる企業であるために、お客様とのコミュニケーションを大切にしています。

お客様相談室の役割と仕組み

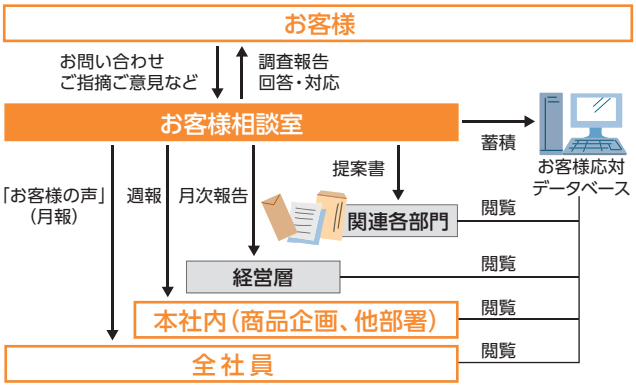
お客様の声を商品とサービスに反映

お客様相談室には年間約8,000件のお客様の声が寄せられています。内容は、商品の取り扱い店、賞味期限、原材料の原産地などに関するお問い合わせ、さらには商品に関するご指摘など、多岐にわたります。これらの声の一つひとつに真摯に耳を傾け、お客様と宝酒造をつなぐ架け橋となるべく努めています。

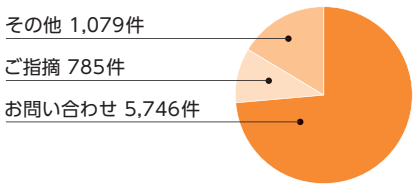
宝酒造では、「消費者のいきいきは、私のいきいき」を行動規準にしています。お客様の声は、すべて個人情報を保護した上でデータベースに蓄積し、お客様のニーズに応える商品づくりとサービス向上につなげています。今後も、“誠実・迅速・確実”をモットーに、お客様にベストな対応ができるよう努めてまいります。

D:お客様相談室

● お客様の声の社内フィードバック



● お客様相談件数と内訳　2015年度　7,610件



消費者視点の「お客様満足」に向けて

JISQ10002(ISO10002)の自己適合宣言

宝酒造は、JISQ10002(ISO10002)「品質マネジメント—顧客満足—組織における苦情対応のための指針」に則り、「お客様満足のための基本方針」と「お客様対応の行動指針」を定めました。そして、これら基本方針と行動指針を実行に移すために、お客様対応マニュアル・手順書などを体系的に整備しました。お客様満足の向上に向け、社員一人ひとりがお客様の目線で考え、お客様対応プロセスの継続的な改善に取り組んでまいります。

お客様満足のための基本方針

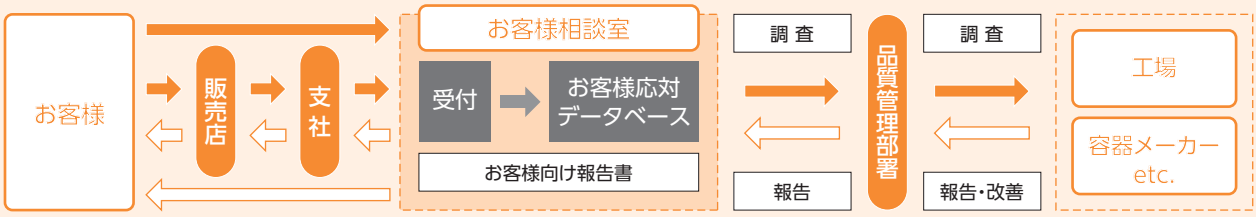
私たちは、お客様の目線で考え、お客様の声を企業活動に反映させてまいります。

より良い商品、より良い品質、より良いサービスを提供することに努め、お客様に信頼される企業をめざします。

お客様対応の行動指針

①お客様に対して、誠実、迅速、確実を心がけ、真摯に応対します。
②お客様に対して、公平かつ公正な応対に努めます。
③お客様に対して、適切でわかりやすい情報提供に努めます。
④お客様の声は社内で共有し、商品開発や商品改良に反映します。
⑤お客様の個人情報は、関連法令や社内規準を遵守し適正に取り扱います。

お客様からご指摘を受けた商品の調査・報告の流れ



お客様の声を反映した改善事例

宝酒造では、お客様から寄せられるご意見などを参考に、よりお客様に満足していただける商品づくりや商品の改良に取り組んでいます。

【事例1】ごみの分別
シュリンクフィルムをより簡単にはがしやすく改良(2013年)

<お客様の声>

「商品のシュリンクフィルムがはがしにくく、苦労しています。もう少しはがしやすくしてください」

<改善点>

・焼酎の220㎖ペットカップのシュリンクフィルムを改良しました。シュリンクフィルムはミシン目に沿ってはがすようになっていますが、写真のように取っ掛かり(ツマミ)を大きくしたり、底面側には凹部をつくりました。

改善前

改善後

【事例2】商品名の表示
背面からも商品がわかるように改良(2011年)

<お客様の声>

「収納棚に並べて背面から見ると、ほかの調味料との区別がつきにくい」

<改善点>

・タカラ本みりんの1.8ℓ取手付きPETボトルのラベルの背面にも商品名の表示を入れ、どの方向からでも本みりんであることが判別できるようにしました。

正面

背面

【事例3】製造年月日の表示
キャップの表示と色味を改良(2014年)

<お客様の声>

「キャップを開ける方向がわかりにくい」
「製造年月日が読みにくい」

<改善点>

・スパークリング清酒“松竹梅白壁蔵「澪」”の開栓方向をわかりやすくするため、キャップの側面に矢印を追加しました。
・同キャップの表示を見やすくするため、キャップ天面の色合いを見直し、青の色味を薄くしました。

改善前

改善後

改善前

改善後

お客様の声を反映した新商品開発

酒類の容器にパウチパックを採用

宝酒造で紙パック清酒のユーザーを対象に調査を行ったところ、「冷蔵庫の中で場所をとる」「捨てるときに解体しにくい」などの不満があることがわかりました。そのような声にお応えして、2011年にパウチパック入りの松竹梅「天」900mℓエコパウチを新発売しました。

パウチパックなので狭い隙間にも収納でき、また中身が少なくなると省スペースになります。飲用後は丸めて、キャップとともにプラスチックごみとして捨てられるので、紙パック容器のような解体・分別は不要です。

発売以降好評をいただき、本格焼酎、本みりん、料理清酒などでもパウチパック商品を発売し、幅広い利便性を提供しています。

パウチパック入りの松竹梅「天」、タカラ「本みりん」

おいしさと機能性を実現した高アルコールチューハイ

近年健康志向の高まりにより、糖質ゼロなどの機能性を訴求した商品に注目が集まっています。宝酒造でチューハイユーザーを対象に調査を行ったところ、人工的な味わいや甘さに不満が多いことがわかりました。そこで、当社独自の「果実のおいしさ閉じ込め製法」により、業界初となる、果汁を使用しながらも糖質・プリン体・甘味料・香料・着色料をゼロにした「5つのゼロ」を実現し、キレのある果実感と飲みごたえのある高アルコールチューハイ“タカラ果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”を開発しました。

商品の表示に関する取り組み

目の不自由なお客様の誤飲防止

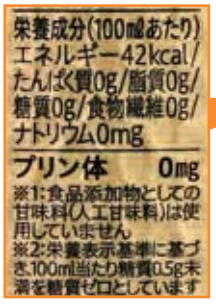
宝酒造では、目の不自由な方の誤認飲酒を防止するため、1995年に国内で初めてタカラcanチューハイの缶ぶたに点字で「おさけ」の表示を実施しました。2002年には、やはり国内で初めて紙パック酒類のキャップに、同様の点字表示を行いました。

缶ぶたやキャップに点字を表示

栄養成分の表示

お客様からカロリーのお問い合わせが多いチューハイについては、自主的にカロリーを含む栄養成分を表示しています。

また甲類焼酎についても、自主的に栄養成分表示を実施するなど、適正な商品情報をお客様にわかりやすく提供しています。



栄養成分表示の例

アレルギー物質の表示

宝酒造では、アレルギー表示制度が導入された2002年以降、義務表示と推奨表示に指定された全27品目のアレルギー物質を原材料欄に表示しています。

同制度ではお酒に含まれるアレルギー物質の表示は免除されています。しかし当社では、制度に関わりなく、アレルギー物質をお客様に正確にお伝えしています。

その他の醸造酒
アルコール分：15度　　容量：500ml
原材料：もち米、麦麹(小麦)
輸入者及び引取先：宝酒造株式会社
京都市下京区四条通烏丸東入長刀鉾町20
お客様相談室　TEL 075(241)5111

アレルギー表示の例

お客様の「いきいき」のために

お客様の健康への配慮

酒類メーカーの社会的責任として、率先して適正飲酒の啓発に取り組んでいます。

適正飲酒の啓発活動

酒類を製造・販売する企業の社会的責任として

宝酒造は、酒類を製造・販売する企業の責任として、飲みすぎによる健康障害や未成年者飲酒、飲酒運転などを防止するため、適正飲酒の啓発に取り組んでいます。1984年の「はたちまでストップ」キャンペーン以来、過剰な飲酒や未成年者飲酒、妊産婦飲酒、飲酒運転の防止に関する情報発信を継続。一方で、こうした不適正な飲酒を誘発するような広告表現や表示、販売方法を行わないように徹底しています。

啓発情報の発信

1986年にお酒の正しい知識や飲み方をわかりやすくまとめたパンフレット「Say No読本」を発行しました。

さらに2009年にはこれをリニューアルした「お酒おつきあい読本」を発行し、適正飲酒を呼びかけています。この冊子をさまざまなイベントなどでご提供しているほか、同内容を宝酒造ウェブサイトでも公開しています。

お酒おつきあい読本

E：お酒おつきあい読本

広告での配慮

酒類のテレビCMについては、①未成年者飲酒を誘発するような表現はしない、②過度の飲酒を勧めるような表現や社会的良識に反する飲酒の表現はしない、③未成年者飲酒禁止、飲酒運転禁止などを明示する、④放送時間帯を制限する（昼間[18時まで]は放送しない）、⑤未成年の視聴者が多い番組での放送は自粛するといった業界基準を遵守しています。

新聞・雑誌などテレビCM以外の宣伝広告についても同様に、未成年者の飲酒を禁止する旨などのメッセージを、読者の目に付きやすい位置にはっきりと表示しています。

商品表示や販売上の配慮

未成年者の飲酒を防止する取り組みとして、1995年から商品パッケージに「未成年者の飲酒は禁止されている」旨の表示をしています。また、未成年者の飲酒につながりかねない酒類自動販売機の屋外設置は受け付けていません。

さらに、妊娠中や授乳期の飲酒防止のために、2004年から商品パッケージや新聞・雑誌広告に妊産婦飲酒に関する注意表記を表示しています。

飲酒運転の防止に関しては、1995年から酒類全商品のパッケージに飲酒運転に関する注意表記を表示しています。

また清涼飲料との誤飲を防ぐため、ソフトアルコール飲料に「お酒」マークを業界で初めて表示しました。缶入り製品および300㎖以下の酒類製品で、アルコール分10度未満のすべての製品に同様のマークを表示しています。

試供品配布は、未成年者でないこと、運転者でないことが確認できる場合に限っています。

注意表記の表示の例

お酒マークの表示の例

地球の「いきいき」のために

環境活動の基本的な考え方と体制

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を構築し、事業活動全般にわたる環境負荷削減に取り組んでいます。

宝グループ環境方針

1.宝グループの企業理念

「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」この基本理念に基づいて、宝グループは積極的に環境保全に取り組み、豊かな社会づくりに貢献します。

2.基本方針

宝グループの業務内容は、グループ全体の経営資源配分などグループ戦略の推進やIR活動および酒類・食品・酒精事業全般とこれを支援するマーケティング調査・人材派遣、IT化支援など多岐にわたっています。これらの活動が環境に与える影響を的確に把握し、地球環境保全に貢献するために、次の基本方針に基づき活動します。

(1) 地球環境の保全と事業活動の調和を経営の重要課題の一つとして取り組みます。
(2) 環境マネジメントシステムを構築し、継続的な改善と汚染の予防に努めます。
(3) 環境に関する法規制および組織が同意するその他の要求事項を遵守します。
(4) 事業活動全般の環境影響評価を的確に行い、技術的、経済的に可能な範囲で目的・目標を定めて実践し、また定期的に見直すことにより環境パフォーマンスの向上を図ることを約束します。
(5) 宝グループが行う事業活動の中、特に以下の項目について優先的に環境保全活動を推進します。
①天然資源を大切にし、省資源・省エネルギーに努めます。
②環境に配慮した商品開発に努めます。
③グリーン購入に努めます。
④環境活動への取り組み、環境パフォーマンス情報を積極的に開示し、社会とのコミュニケーションに努めます。
(6) 本環境方針は、教育啓発活動を通じて宝グループの全構成員に周知するとともに、社員の社会貢献活動への参加を積極的に支援します。
なお、本環境方針は、一般の人が入手可能なものにします。

2012年6月28日
宝ホールディングス株式会社　取締役社長／宝酒造株式会社　取締役社長　柿本　敏男

注）ISO14001：2004における宝グループは、宝ホールディングス、宝酒造、トータルマネジメントビジネスで構成されています。

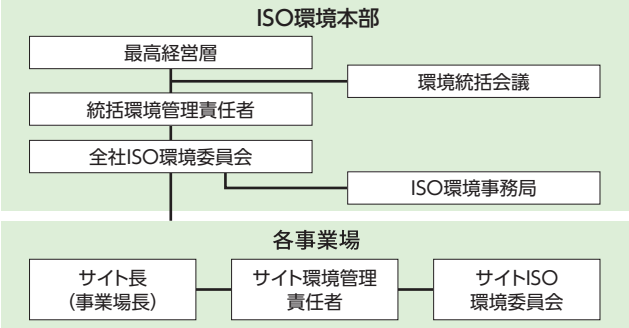
宝グループ環境マネジメントシステム

ISO14001に基づく環境マネジメント体制を確立

宝酒造の全工場、全支社、本社、および宝ホールディングス、トータルマネジメントビジネスの本社でISO14001の認証を取得しています。ISO環境本部を中心に経営と直結した目標に向かって活動しています。

1：ISO14001、9001取得年表
2：ISO14001、2015年度の結果

● 宝グループ環境マネジメント体制



地球の「いきいき」のために

空容器問題への取り組み

リデュース、リユース、リサイクルの3Rにリフューズを加えた4Rに取り組んでいます。

空容器問題への取り組み

空容器の発生回避に向けて

一般家庭から出るごみの約6割（容積比）は、容器包装が占めています。

このため、宝酒造ではこの空容器の問題に対処するため、リデュース（Reduce：減量化）、リユース（Reuse：再使用）、リサイクル（Recycle：再資源化）の3Rにリフューズ（Refuse：発生回避）を加えた4Rの取り組みを進めています。

リフューズとは、余分なものを買わずに必要な物だけを買うことにより、ごみを減らす活動です。「はかり売り」は、容器を購入せず必要な分だけ中身を買うという意味でリフューズにあたります。

F：環境に配慮した容器・包装
3：720mℓリターナブルびんの推移

焼酎のはかり売りの展開

宝酒造独自の活動として、焼酎のはかり売りを展開しています。

焼酎のはかり売りでは、当社の工場で1kℓや200ℓの専用タンクに焼酎を充填し販売店に直送します。お客様は家庭にあるPETボトルなどの空容器を販売店に持参し、専用タンクから必要な分だけ容器に詰めて購入します。

「はかり売り」は、資源の節約や廃棄物の削減を実現するために人手を使う販売手法であり、消費者、販売店、メーカーの信頼関係をベースにお互いが協働することで成り立っています。

現在は全国で約160店舗にご協力いただき、1998年の開始以来2016年3月までに、2.7ℓPETボトル換算で約831万本、段ボール約208万枚を節約することができました。

環境配慮型商品の開発

宝酒造では、「環境に配慮した商品開発のための指針」や「環境配慮型商品開発に関する手順書」を作成し、資材調達や商品開発においてISO14001の環境目標を設けて、容器の3R（リデュース、リユース、リサイクル）に配慮した商品開発を継続的に進めています。

2015年度は、“タカラ果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」”のアルミ缶の軽量化をはじめ、調味料のPETボトルや清酒の外函などの軽量化を図りました。

4：環境に配慮した商品開発のための指針
5：グリーン調達・4Rガイドライン

各種団体との連携による取り組み

容器の3Rを推進するためには、関連する業界全体での取り組みが不可欠です。効率的なリサイクルシステムの構築や機関誌、ウェブサイト、展示会などを通じた容器の3Rの啓発活動などは、関連する業界全体で取り組むことが効果的です。

当社では、ガラスびんやPETボトル、紙製容器など、さまざまな容器の3R推進団体に加入し、団体の活動に積極的に参加しています。

宝酒造が加入している主なリサイクル団体

- ガラスびん3R促進協議会
- PETボトルリサイクル推進協議会
- アルミ缶リサイクル協会
- 紙製容器包装リサイクル推進協議会
- 酒パックリサイクル促進協議会
- 酒類PETボトルリサイクル連絡会

地球の「いきいき」のために

環境負荷削減の取り組み

宝酒造は、酒類の製造メーカーとして商品の開発から原材料の調達、商品の生産、物流、販売に至るすべての段階で、地球環境への負荷削減に取り組んでいます。

CO_2の削減

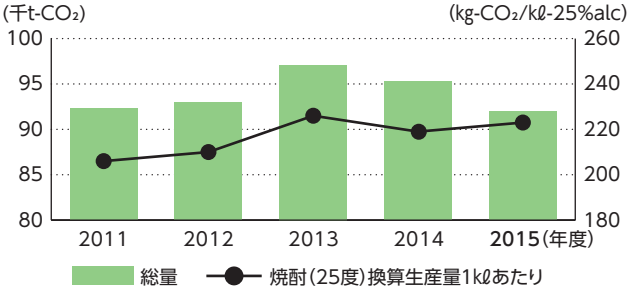
生産でのCO_2削減

アルコールの蒸留や製品の殺菌のために使う蒸気をつくる際にガスや重油を使います。また、製品を容器に詰める際に電気を使用します。

宝酒造では、日々の省エネ活動や重油ボイラーからガスボイラーへの転換、省エネ設備の導入などで生産時のCO_2排出量の削減に取り組んでいます。

2015年度は高効率ボイラーへの更新、熱回収や保温対策の効果で、2014年度と比較して総量は削減できましたが、原単位では増加しました。

● 生産でのCO_2排出量



〈生産でのCO_2削減の取り組み事例〉

- 重油ボイラーからガスボイラーへの転換および高効率ボイラーへの更新
- 蒸気や高温排水の廃熱の再利用
- コージェネレーション(熱電供給)システムの導入

物流でのCO_2削減

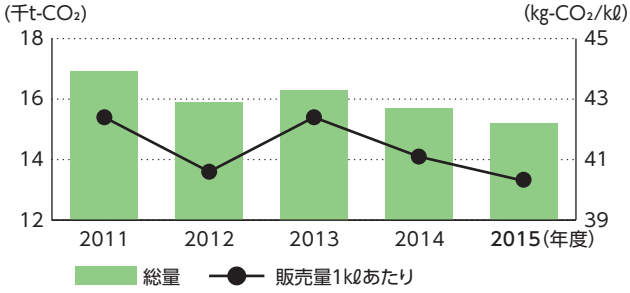
工場からトラックや鉄道、船舶などで商品を運ぶのに伴いCO_2が発生します。

宝酒造では物流の効率化や省エネ運転、モーダルシフト※の推進により、輸送時のCO_2の排出量の削減に取り組んでいます。

2015年度は消費地生産による東西間の輸送の削減に努めたことで、2014年度と比較して総量、原単位とも改善しました。

※モーダルシフト:トラックから環境負荷の小さい鉄道・海運利用へと貨物輸送を転換することをいいます。

● 物流でのCO_2排出量



〈物流でのCO_2削減の取り組み事例〉

- フェリー、鉄道などへのモーダルシフト
- 消費地生産による東西間の転送の削減
- 物流子会社による高積載トラックの開発

マイクロガスタービンコージェネレーションシステム
発電用ガスタービンから排出される高温の排気によって蒸気を作ることで燃料を効率的に利用しています。

専用タンカーでのアルコール輸送
島原工場で蒸留したアルコールを神戸まで専用タンカーで運んでいます。

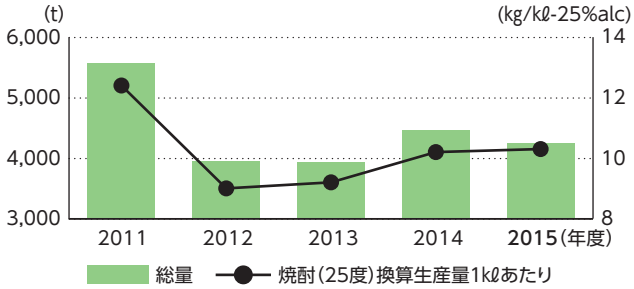
廃棄物の削減

工場では焼酎粕などの副産物や排水汚泥、原料や容器の運搬資材などの廃棄物が発生します。

そのため焼酎粕の飼料化やかつお粕の肥料化など食品系副産物の有効利用により工場廃棄物排出量の削減に取り組んでいます。

2015年度は、焼酎粕の減少と飼料化による有効利用の割合が高まったため、2014年度と比較して総量は減少しました。

● 生産での廃棄物排出量



〈廃棄物削減の取り組み事例〉

・焼酎粕飼料化設備の導入
・排水汚泥の減容化

焼酎粕の飼料化設備
黒壁蔵で発生する焼酎粕を飼料化して有効利用しています。

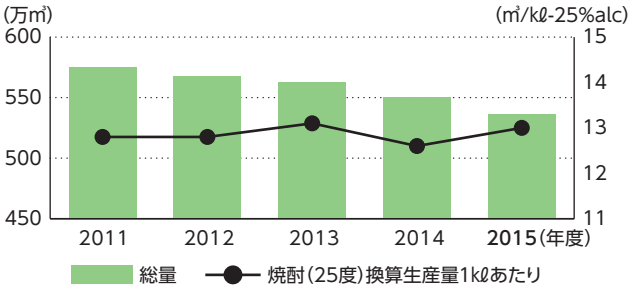
用水使用量の削減

お酒の仕込水として水を使用するほか、装置や容器の洗浄および冷却などにも水を使います。

生産工程での水の再利用や節水により用水の削減に取り組んでいます。

2015年度は生産設備の洗浄方法の改善や排水処理設備の節水対策の効果で、2014年度と比較して総量は削減できましたが、原単位では増加しました。

● 生産での用水使用量



環境関連法規の遵守状況

定期的に遵守状況をチェック

ISO14001のマネジメントシステムを活用して定期的なチェックを実施し、法規の遵守状況を確認しています。また、環境汚染の未然防止の観点から、自主基準を設定しています。

なお、2015年度は下水道法に関する基準オーバーについて2件の是正指導を受けました。いずれも速やかに是正処置を行い再発防止の対策を実施しました。

主要な環境関連法規

- 公害関係法規(水質汚濁防止法など)
- 廃棄物処理関係法規(廃棄物処理法など)
- 化学物質管理関係法規(PRTR法、毒物劇物取締法など)
- リサイクル関連法規(容器包装リサイクル法など)
- 省資源関連法規(省エネ法など)
- 防災・危険物関係法規(消防法など)　など

地球の「いきいき」のために

環境会計

環境会計ガイドラインに基づく環境会計、ならびに当社独自指標である緑字決算を公表します。

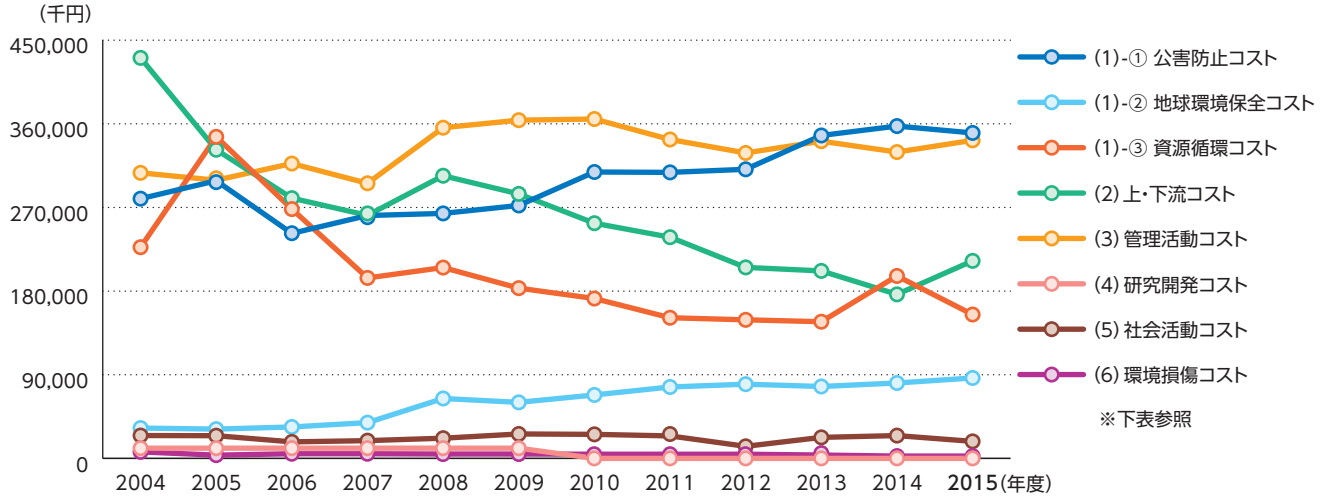
環境会計ガイドライン（環境省）に基づく環境会計

環境会計ガイドライン(環境省)に基づく分類において、継続性のある「費用」について2004年度以降の推移を以下のグラフで示します。過去12年間で「公害防止コスト」と「地球環境保全コスト」が増加する一方、「上・下流コスト」と「資源循環コスト」は、減少傾向にあります。「公害防止コスト」はボイラー、排水処理施設の点検・補修費用および大気汚染や水質汚濁防止のための費用が、「地球環境保全コスト」は省エネ設備の導入や点検・補修費用などが多くを占めています。

「上・下流コスト」の主な減少要因は、販売した商品のリサイクル費用、特にPETボトルのリサイクル費用の減少によるものです。また、「資源循環コスト」の減少要因は、廃棄物の有効利用が進み産業廃棄物処理費用の減少などによるものです。

2015年度は、環境に関する投資額合計が194,460千円、費用額合計が1,164,629千円と、2014年度に比べて投資、費用ともやや減少しました。このうち費用の増減要因は、ガラスびん商品の販売増に伴うリサイクル費用（上・下流コスト）が増加する一方、産業廃棄物処理費用の減少など資源循環コストが減少しました。

● 過去12年間の環境会計（費用）のグラフ



● 2015年度環境会計（2015年4月～2016年3月）

分類		主な取り組みの内容	投資	費用
(1) 主たる事業活動により事業エリア内で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（事業エリア内コスト）			177,594	591,530
内訳	①公害防止コスト	排水処理設備更新、ボイラー設備メンテナンス、賦課金など	91,194	350,192
	②地球環境保全コスト	蒸気配管の保温、排熱回収設備、冷蔵、冷凍設備の更新など	23,743	86,536
	③資源循環コスト	飼料化設備、廃棄物リサイクル設備の整備など	62,657	154,802
(2) 主たる事業活動に伴ってその上流又は下流で生じる環境負荷を抑制するための環境保全コスト（上・下流コスト）		はかり売り用タンク購入、再商品化委託費用、リターナブルびんシステム維持など	848	212,541
(3) 管理活動における環境保全コスト（管理活動コスト）		環境マネジメントシステムの整備・運用、環境設備の運用など	16,018	342,240
(4) 研究開発活動における環境保全コスト（研究開発コスト）		製品などの製造段階における環境負荷の抑制のための研究開発	0	0
(5) 社会活動における環境保全コスト（社会活動コスト）		環境教育イベント実施、環境NPO支援など	0	18,316
(6) 環境損傷に対応するコスト（環境損傷コスト）		産業廃棄物適正処理推進基金	0	2
合　計			194,460	1,164,629

（集計範囲：宝酒造単体、単位：千円）

緑字決算

環境活動の成果を独自指標で評価

企業は、原材料やエネルギーを利用したり、廃棄物や温室効果ガスを排出するなど、地球環境と密接に関わりあいながら事業活動を行っています。そこで、地球に対しての事業活動における環境面の収支を報告する必要があると考え、導入したのが「緑字決算」です。この「緑字(りょくじ)」という言葉は、経済活動の成果を一般的に「黒字」「赤字」と表現することから、環境活動の結果を表現する言葉は何字だろう?と考えた時、環境=緑のイメージから1998年に生まれました。以来毎年、「緑字決算」として宝酒造の環境活動の取り組み結果を公表しています。

緑字決算の定義

原材料の調達から生産、物流、消費後に至るまでのすべてのプロセスで発生する環境負荷の中から重要な環境負荷項目を選定し、その環境負荷の改善度をECO(エコ)という1つの統合指標で表したものです。

緑字決算ECOの算出方法

①「緑字決算」の指標に選定した環境負荷項目はそれぞれ単位が違うので単純には比較できません。そこで、それぞれの環境負荷の基準年(2013年度)からの改善率(%)を求めることにより単位を揃えました。

②環境負荷の影響度はそれぞれ異なっているので、改善率を単純には平均できません。そのため環境負荷項目に重み付けを行いその「重み付け係数」を掛けて個別ECOを求めた後、その平均をとって統合指標ECOを算出しました。なお、「重み付け係数」の決定にあたってはインターネット上で、約1,000人の方に重要度の順位付けを行っていただきその結果を係数化しました。

個別ECO = 項目ごとの改善率 × 重み付け係数

緑字決算ECO = 個別ECOの平均値

6:緑字決算対象項目選定と重み付け詳細

2015年度の緑字決算は+2.7ECO

容器包装の減量化や省エネ、省資源活動の結果、原材料、資源・エネルギーの調達や大気・水系への排出、容器包装の排出の項目がプラスECOとなりました。

一方で、廃棄物の排出は排水汚泥や廃プラスチック類の増加があったためマイナスECOとなりました。

その結果、2015年度の宝酒造全体としての緑字決算は+2.7ECOとなりました。

● 2015年度 緑字決算報告(2015年4月～2016年3月)

	地球環境からの調達					地球環境への放出			
	原材料の調達		資源・エネルギーの調達			大気・水系への排出		廃棄物の排出	容器包装の排出
(単位)	原料 (t)	容器包装 (t)	燃料(物流を含む) (kℓ・原油換算)	電力 (千kwh)	用水 (千㎥)	CO_2(物流を含む) (t-CO_2)	工場排水 (千㎥)	工場廃棄物 (t)	リサイクルされない容器包装 (t)
2015年度	146,741	45,878	39,739	40,891	5,362	107,216	3,891	4,247	11,885
2013年度(基準年)	152,054	49,769	40,385	41,116	5,626	113,466	4,054	3,938	12,617
①改善率(%)	3.5%	7.8%	1.6%	0.5%	4.7%	5.5%	4.0%	-7.8%	5.8%
②重み付け係数	0.94	1.04	1.07	1.13	0.89	1.08	1.06	1.00	0.78
個別ECO=①×②	3.3	8.1	1.7	0.6	4.2	5.9	4.2	-7.8	4.5

②の重み付け値は、消費者アンケートにより決定します。
リサイクルされない容器包装=容器包装量×(1−容器包装のリサイクル率)

環境決算 ECO	+2.7

7:環境データ算出方法　8:過去の緑字決算結果

地球の「いきいき」のために

タカラ・ハーモニストファンド

自然環境保全や生物多様性保全のための活動や研究に取り組む団体や個人を全国から公募し、広く支援し続けています。

公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」

宝ホールディングスは、1985年の創立60周年を機に公益信託「タカラ・ハーモニストファンド」を設立し、以来毎年、日本の森林や水辺の自然環境を守る活動や、そこに生息する生物を保護するための研究などに対して助成を行っています。助成先の選考は、自然科学分野の専門性の高い有識者により構成される運営委員会により行われます。2015年度は、多数の応募の中から、「NPO法人 いけま福祉支援センター」など全国で10件の自然環境保全に関する活動・研究が助成先として選ばれました。第1回からの助成先件数は延べ322件、助成金累計額は1億5467万9千円になりました。

G:タカラ・ハーモニストファンド

● 2015年度タカラ・ハーモニストファンド助成先一覧

	助成先団体・個人	地域	テーマ
活動の部	「人と海鳥と猫が共生する天売島」連絡協議会	北海道	天売島の海鳥保護を目的としたノラネコ対策の実施
	十和田湖自然ガイドクラブ	青森県	休屋杉並木保全活動
	NPO法人 三番瀬環境市民センター	千葉県	三番瀬を里海として保全・再生するための調査活動
	北野 大輔	滋賀県	滋賀県の内湖における侵略的外来生物駆除および在来魚のモニタリング
	足摺宇和海国立公園大月地区パークボランティアの会	高知県	サンゴ保全にかかる普及啓発および調査活動
	研究会はたのおと	高知県	小さな自然再生：流域の土と木で生態ネットワークを回復
	NPO法人 いけま福祉支援センター	沖縄県	池間湿原の保全・再生へ向けた鳥瞰・虫瞰調査
研究の部	NPO法人 富士山自然保護センター	山梨県	富士山梨ヶ原の絶滅危惧動植物に地質や土地利用が及ぼす影響に関する研究
	畠 佐代子	滋賀県	水田地帯に生息するカヤネズミの食性に関する研究
	松本 清二	奈良県	奈良県を中心とした紀伊半島におけるオオサンショウウオの生息調査

VOICE

沖縄県　池間湿原の保全・再生へ向けた鳥瞰（ちょうかん）・虫瞰（ちゅうかん）調査

「北の入江」を意味する「イーヌブー」は、かつては入り組んだ汽水域で、多くの生き物が生息していました。しかし1960年代に港建設で海水の入り口が閉じられると淡水湿原に姿を変え、新たな生態系が生まれました。現在、「イーヌブーの自然を守るべき」とする考えがある一方で、観光地化を望む声、「汽水域に戻すべき」とさまざまな意見がありますが、イーヌブーの将来を考えるためには、現状を知る必要があります。そこで専門家を招き、環境調査の方法などを学ぶことからスタート。子どもたちと生き物観察会を行い、自然環境を調べています。

NPO法人　いけま福祉支援センター

社会の「いきいき」のために

社会貢献活動

「自然と社会と人間との調和」をめざし、環境教育や学生支援など、
さまざまな社会貢献活動を推進しています。

囲碁大会「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」開催

宝酒造は、囲碁とお酒が楽しめる囲碁大会「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」を公益財団法人日本棋院と共同で開催しています。

「宝酒造杯」は二十歳以上ならだれでも参加できる全国規模の囲碁大会で、対局だけでなく、宝酒造の製品の試飲やクイズラリーなどのイベント、プロ棋士による指導碁、サイン会などが催される盛りだくさんの大会です。当社の製品や企業理念を理解していただく良い機会にもなっています。

2015年度は全国11か所、12回の地方大会ならびに全国大会の延べ8,732名の方に参加いただき、参加者は年々増加しています。また、毎年雑誌「週刊碁」が発表する「碁会ニュースグランプリ2015」の第16位に入賞するなど話題になっています。今後とも囲碁の普及とともに宝酒造ファンも増やすべく、より良い大会をめざします。

「宝酒造杯」の様子

ベロタクシーに協賛

ベロタクシーは、1997年にドイツの首都ベルリンで「環境にやさしい新しい交通システムと広告が一つになった乗り物」として開発された自転車タクシーです。日本での運行は、NPO法人ベロタクシー・ジャパンが京都でスタートさせました。

宝酒造では、気候変動問題の啓発にも役立つベロタクシーに共感し、2002年の走行開始以来毎年協賛しています。また、2013年には現行のベロタクシーがドイツ製であるため購入コストが高く日本の道路事情からするとやや大きいという課題を解決するために日本の事情にあった国産初のベロタクシーの開発にも協賛しました。

試乗会の様子

開発に協賛した国産のベロタクシー

動画募金を通じた寄付を実施

2016年2月にインターネット動画募金※を実施し、NPO法人アサザ基金に403,665円、NPO法人地域環境デザイン研究所ecotoneに458,570円の寄付を行いました。

インターネット動画募金に際しては、当社が実施する環境教育活動である、宝酒造「田んぼの学校」および宝酒造「エコの学校」（P.9-14特集参照）の様子をそれぞれ3分程度にまとめた動画をご覧頂きました。

※動画閲覧者が、スポンサー企業の提供する動画を閲覧後、募金ボタンをクリックすることによりスポンサー企業が選定した支援先団体に無料で寄付できる仕組みです。スポンサー企業はクリック数に応じた金額を支援先団体に寄付します。

環境省主催「エコライフ・フェア」に協賛

2015年6月に開催された環境省主催「エコライフ・フェア2015」に初めて協賛出展しました。当社の空容器問題への取り組みや宝酒造「田んぼの学校」、「エコの学校」の環境教育、タカラ・ハーモニストファンドなどの取り組みを紹介しました。

望月義夫環境大臣（当時）に宝酒造の環境活動を説明

ロハスフェスタに協賛

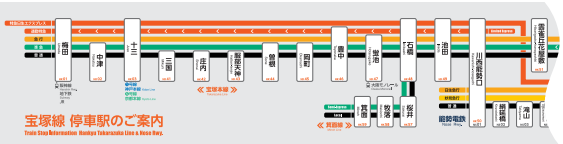
2015年4月に開催された「第23回ロハスフェスタin万博公園」に協賛出展しました。当日は好天に恵まれ会場には約88,000人の来場者があり、当社の展示ブースにも約2,000人の来場がありました。また、9月に開催された「第6回ロハスフェスタin東京・光が丘公園」にも協賛出展しました。やや不安定な天気でしたが会場には約52,000人の来場があり、当社の展示ブースにも約1,600人の方々に来ていただきました。

宝酒造展示ブースの様子

グループ会社の取り組み　大平印刷

カラーユニバーサルデザイン

大平印刷では、色弱の方をはじめ、あらゆる方に見分けやすい配色「カラーユニバーサルデザイン（CUD）」を用いた、人にやさしい印刷物「ユニバーサルプリンティング」の普及に取り組んでいます。2015年度も、阪急電鉄（株）のサインデザインに採用されました。



チャリティペーパー

寄付金を含んだ印刷用紙「ワクチンペーパー」を日本紙パルプ商事株式会社と共同で開発し、2008年より「世界の子どもにワクチンを 日本委員会（JCV）」の活動を支援しています。2015年度は、6,173人分のワクチンを贈ることができました。同様の仕組みで、日本赤十字社には「赤十字ペーパー」、公益財団法人日本盲導犬協会には「盲導犬支援ペーパー」を活用することで、各団体の活動を支援しています。この緑字企業報告書も「赤十字ペーパー」を使用しています。

社会の「いきいき」のために

地域への貢献

ボランティア活動や講義への協力など地域に密着した社会貢献活動を推進しています。

宝酒造「田んぼの学校」で収穫したもち米を障がい者の福祉作業所などに寄贈

宝酒造「田んぼの学校」2015（P.9-14特集参照）で収穫したもち米の一部を、「田んぼの学校」で使用する看板やのぼりなどの製作で関わりのある社会福祉法人太陽の園や冨里福葉苑などに寄贈しました。寄贈したもち米は、年末に施設で行われる餅つきなどで使われました。

また、「田んぼの学校」を開催している園部町の小学校の給食用としても、もち米を寄贈しました。

冨里福葉苑への寄贈の様子

白壁蔵で地場産業学習イベントを受け入れ

神戸市東灘区が主催する小中学生対象の地場産業学習イベント「ジュニアさけスクール」を2004年以降、白壁蔵で受け入れています。

2015年は7月30日に、保護者も含めて約50名の参加のもと開催されました。参加者は最初に灘の酒造りの歴史や酒造りの工程の説明を受けた後、工場内で実演見学や作業体験を行いました。

「ジュニアさけスクール」の様子

各地での地域貢献活動

地域の環境イベントへの協賛や協力、各地の清掃活動へのボランティア参加など、全国のさまざまな活動に積極的に参加、協力しています。

主な内容
東京都中央区フラワーサポート　地域美化活動に協賛
オープン・フォレスト・イン・松戸 地域の環境イベントに協賛　（千葉県）
容器のリサイクル絵本「宝酒造リサイクルロード」を希望者に提供
使用済み切手の回収・提供　（宮城県、三重県、長崎県）
芝桜公園　除草ボランティア　（長崎県）
京都市まちの美化　清掃ボランティア参加
まちかどクリーンデー　清掃ボランティア参加　（東京都）
江戸川クリーン大作戦　河川敷清掃ボランティア参加　（千葉県）
西京区天皇の杜　清掃ボランティア参加　（京都府）
本社周辺清掃ボランティア　（京都府）
蚊口浜ビーチクリーン　清掃ボランティア　（宮崎県）
高松海岸　清掃ボランティア　（三重県）
御殿場海岸　清掃ボランティア　（三重県）
その他各事業場周辺の清掃ボランティアに参加　（全国）

清掃ボランティア活動の様子

社員の「いきいき」のために

ワーク・ライフ・バランス

個人の価値観やライフスタイルに応じて、仕事と家庭を両立しながら
いきいきと働ける環境を整えています。

めざすべき人財像

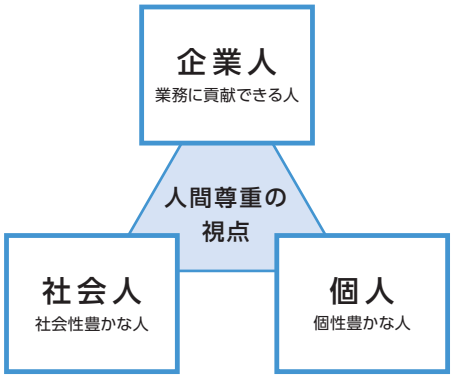
企業人・社会人・個人のバランスを重視

「人」はかけがえのない「財産」であるとの視点に立ち、私たちは人材を「人財」と表現しています。

また、企業価値の向上を実現するためには、「風土・人財の進化」が欠かせないと考え、私たちは人間尊重の立場に立ち、「いきいきと明るい職場、人を育む風土」をつくり、その中で「企業人・社会人・個人のバランスのとれた人財」を育成していきます。

「めざすべき人財像」や求められる「役割」を発揮できる人財を育成するために、目標管理制度による、職場での仕事を通じた人財育成や自己申告制度を踏まえた人財ローテーションにより、社員の能力開発につなげています。

● 私たちがめざす人財像



H：採用情報

仕事と家庭の両立を支援

制度の充実により育児や介護との両立を支援

宝酒造では「次世代育成支援対策推進法」に基づき、社員が仕事と子育てを両立し、働きやすい職場環境をつくることができるよう4年ごとに行動計画を策定しています。子育て中の社員が利用できる短時間勤務や所定外労働の制限の制度化、小学校就学前の乳幼児看護休暇制度の拡充に加え、2014年には積立有給休暇の取得要件を拡充することで、中学校卒業前までの子の学校などの各種行事への出席や未就学児の世話などの養育などを目的に休暇を取得できるようになりました。

また、「父親が配偶者の出産時に取得できる休暇制度」を導入するなど男性社員の育児休職取得も推進するとともに、介護休暇制度の設置などにより、男女を問わず育児や介護にたずさわれる環境づくりに努めています。

● 休職休暇制度利用状況

集計年度	2011	2012	2013	2014	2015
育児休職制度利用者数（名）	8	7	10	10	10
介護休職制度利用者数（名）	0	1	0	0	0
乳幼児看護休暇制度利用者数（名）	44	41	43	37	31
妊産婦・乳幼児健診休暇制度利用者数（名）	13	9	9	5	7

注）利用者数は当該年度に制度を利用した人数。

育児休職者に対する支援

育児休職期間中の社員に対して、インターネットを通じた職場復帰支援プログラムを実施しています。これは、休職者の豊かな育児生活とスムーズな職場復帰を支援するための取り組みで、休職期間中の能力開発や会社とのコミュニケーション促進を図るものです。男女ともに働きやすいワーク・ライフ・バランスのとれた企業をめざします。

VOICE

昨年度、2度目の育児休暇を取得しました。1人目のときは、いないいないばーと言ってるあいだに終わってしまったので、今回はやりたいことが盛りだくさんでした。上の子の保育園の送迎も、休暇前は嵐のように去っていましたが、育休中は先生とゆっくり子どもの様子を話すことができました。また、育児の合間に、資格の勉強をして試験を受けたのも久しぶりで、とても新鮮でした。大切な時間に感謝し、これからは時間のやりくりを工夫しながら頑張ります。

酒類事業本部商品部醸造酒課
田和 綾子
育児休暇取得（2015年度）

社員の「いきいき」のために

働きやすい職場づくり

社員がいきいきと安心して働ける職場づくりのために、さまざまな取り組みをしています。

雇用の状況

社員数内訳

2016年4月1日現在の社員数は1,259名で、うち男性が1,112名、女性は147名です。

● 宝酒造社員数内訳

		2015年4月1日		2016年4月1日	
		人数(名)	構成比(%)	人数(名)	構成比(%)
社員総数	男性	1,138	88.6	1,112	88.3
	女性	147	11.4	147	11.7
	合計	1,285		1,259	
うち役職者数	男性	553	97.4	553	96.8
	女性	15	2.6	18	3.2
	合計	568		571	

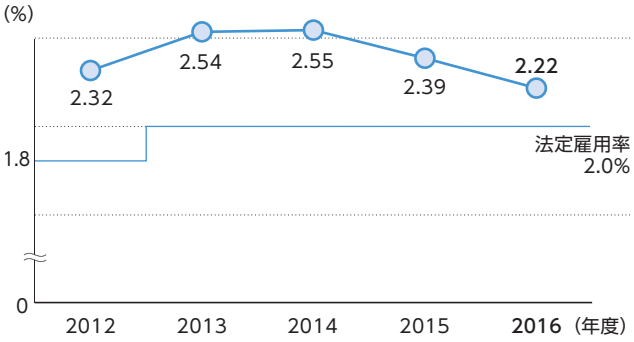
障がい者の雇用促進

障がい者が働きやすい職場づくりを推進

障がい者の雇用にあたっては、職業能力の把握、障がい者の特性に応じた職域の確保・開発、職場環境の改善など、多くの配慮すべき点があります。これら一つひとつを改善し、解決していくことで、障がい者がその能力を十分に発揮できる職場を確保する一方、障がい者が健常者とともに職業生活に参加し、働く生きがいを見出せる環境づくりに取り組んでいます。

その結果、2016年4月1日現在の障がい者雇用率は2.22%で、法定雇用率2.0%(2013年4月1日から適用)を上回っています。

● 障がい者雇用率の推移 (4月1日現在)



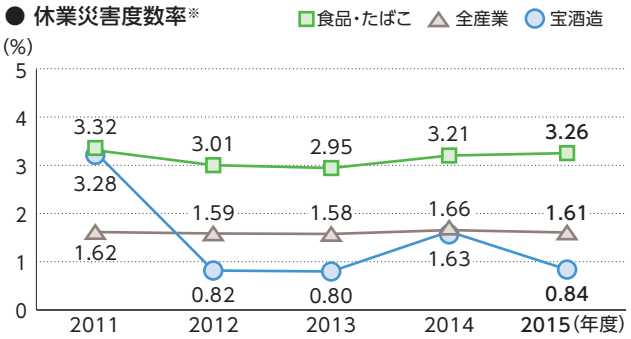
安全衛生管理

安全衛生委員会による活動を推進

社員が安全に働ける環境を整えるために安全衛生委員会を設け、社員の安全意識を高める活動を進めています。工場では「労働安全衛生マネジメントシステム」に基づき、危険が潜む作業や設備を明らかにして事故防止に努めています。

なお、2015年度の休業災害は1件。今後も事故発生原因と対策の水平展開を図り、労働災害ゼロ化をめざしていきます。

● 休業災害度数率※



※度数率:災害発生頻度を表す指数で、延べ100万労働時間あたりの災害件数(資料出所:厚生労働省 労働災害動向調査)

メンタルヘルスの取り組み

外部機関による定期診断を実施

社員の心の健康状態については、宝グループ健康保険組合を通じて、外部機関の診断を定期的に受けられるよう制度を整えていますが、2011年度に診断内容やアフターケアの利便性の見直しを行い、より充実したサービスを提供することができるようになりました。

診断結果は本人のみに通知され、希望に応じて電話や面談によるメンタルカウンセリングに加え、メールでの相談も受けることができます。

人権尊重

差別のない人権に配慮した職場づくり

社員の人権を尊重し、差別のない、明るくいきいきと働ける職場づくりをめざし、入社時や管理職研修、コンプライアンスリーダー研修において、人権に関する啓発活動を実施しています。

採用活動においても、男女雇用機会均等法を遵守するとともに、人権への配慮を徹底するため、採用にかかわる社員にはマニュアルなどによる人権教育・啓発を行っています。また、セクシュアルハラスメントやパワーハラスメント防止に向けて、事業場ごとに相談・苦情の窓口と苦情処理委員会を設置しています。

健全な労使関係

信頼関係を基盤に労使が協調

宝酒造はTaKaRa労働組合と労使の信頼を基盤に健全な労使関係を構築しています。

労使協議会や各種労使専門委員会を開催し、経営内容に関する報告や労働条件について協議しています。

VOICE

「あなたとともに楽しい毎日」をめざしています

TaKaRa労働組合は、健全な労使協調路線のもと、賃金や労働時間などの直接的な労働条件の向上のみならず、働きがいが得られる職場をめざして活動しています。「あなたとともに楽しい毎日」をスローガンに掲げ「仕事と私事のバランスがとれた毎日～オンもオフも充実させよう～」「心身ともに元気な毎日～健康で活き活きとした生活を送ろう～」「目標をもって熱くなれる毎日～達成感・満足感を追い求めよう～」「信頼し合える仲間がいる毎日～仲間とともに喜びを分かちあおう～」という4つの毎日を実現していくことをめざしています。

TaKaRa労働組合
中央執行書記長
佐々木 隆

福利厚生制度

カフェテリアプランでライフスタイルを応援

社宅・独身寮などの基本的な福利厚生制度だけでなく、「カフェテリアプラン」を導入しています。

これは社員一人ひとりが自分のライフプランに合わせて、多様なメニューから自由に福利厚生の内容を選択できる制度です。年度ごとに一定数のポイントが社員に付与され、それを使用することで各メニューを利用できます。

ポイント利用メニューの例

- 社宅・寮使用料補助
- 住宅ローン利子補給
- 育児サービス利用補助
- 介護サービス利用補助
- 子女入学金補助
- 医療費用補助
- 自己開発メニュー利用補助
- 書籍購入費用補助
- 宿泊施設利用補助
- スポーツ施設利用補助
- レジャー施設利用補助

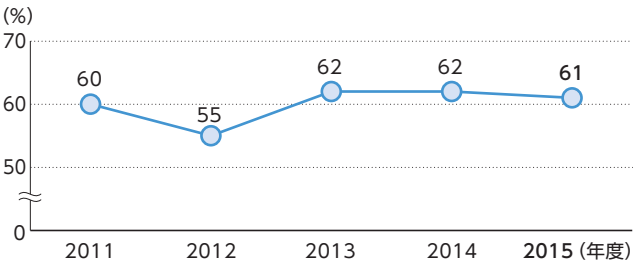
休日休暇制度

多様な休暇制度を採用

年間124日（完全週休2日制）の休日のほか、有給休暇は入社時に年10日間付与され、以後勤続年数によって最大年20日間付与されます。また、2年以上経過した有給休暇は最大40日まで積み立てが可能で、本人の疾病、家族の介護、学校などの教育機関の各種行事への出席や未就学児の世話などの養育、資格取得の際などに利用することができます。

さらに、25歳から55歳まで5年ごとに10日以上の連続休暇を取得するリフレッシュ休暇制度を設けています。その他、事業場単位で定時退勤の呼びかけを行うなど、長時間労働の抑制を図っています。

● 有給休暇取得率の推移



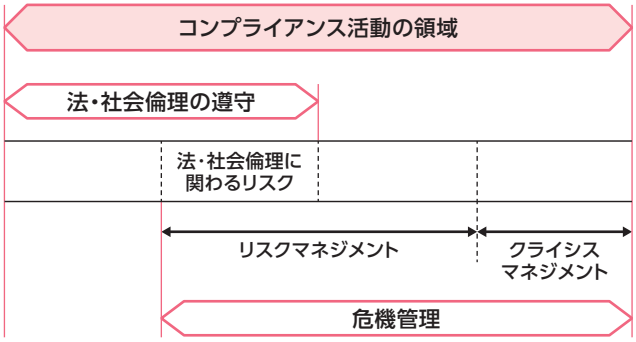
信頼される企業であるために

コンプライアンス

法・社会倫理の遵守は企業の最も基本的な社会的責任です。社員のコンプライアンス意識を啓発しすべての職場で法・社会倫理に則った行動を実践しています。

コンプライアンス推進体制

宝グループでは、コンプライアンス活動の領域を「法・社会倫理の遵守」と「危機管理」と定め、さらに「危機管理」には法・社会倫理に関わるリスクを含む、企業を取り巻くリスクを事前に防止する「リスクマネジメント」と、緊急事態発生時の対応を定めた「クライシスマネジメント」と定義付けています。



コンプライアンス行動指針の配付

社員一人ひとりがどのように行動すべきかを「宝グループコンプライアンス行動指針」を制定し、守るべき基本的な行動ルールをいつでも確認できるように小冊子を作成し全員に配付しています。また、内容についてはコンプライアンス委員会で、適宜見直しを行っています。

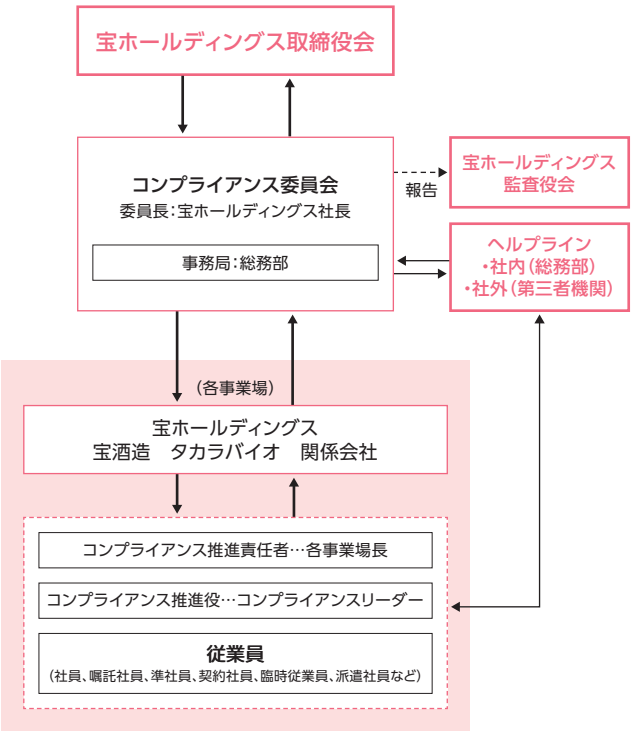
コンプライアンス行動指針

コンプライアンス委員会を中心に指導・推進

宝グループでは、誠実で公正な企業活動を確保するため、社長を委員長とした「コンプライアンス委員会」を設置し、グループ全体のコンプライアンス推進体制の強化を図っています。そして、グループ各社が適正に、法・社会倫理を遵守し、危機管理に対応することで、宝グループ全体が企業の社会的責任を果たし、企業価値を向上させることをめざしています。

コンプライアンス委員会の方針のもと、具体的な活動は各社の社長・コンプライアンス担当役員・事業場長が責任者となり指導・推進するとともに、職場ではコンプライアンスリーダーが推進役を担う体制を構築しています。

● コンプライアンス推進体制



コンプライアンス教育

「宝グループコンプライアンス行動指針」に基づき、トップ・管理職・一般社員の各階層別に、集合研修や職場教育などを行いコンプライアンスの浸透・定着を図っています。

宝グループコンプライアンス行動指針の基本的な考え方

宝グループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて人間の健康的な暮らしと生き生きとした社会づくりに貢献します」という企業理念の実現をめざし、「消費者のいきいきは、私のいきいき」という行動規準に則り、常に誠実で公正な企業活動を行います。

私たちは、

①国内外の法令を遵守するとともに、社会倫理を十分に認識し、社会人としての良識と責任を持って行動します。

②自然環境への負荷の軽減に取り組み、生命の尊厳を大切にした生命科学の発展に貢献します。

③この行動指針に反してまで利益を追求することをせず、公正な競争を通じた利益追求をすることで、広く社会にとって有用な存在として持続的な事業活動を行います。

④就業規則を遵守し、就業規則に違反するような不正または不誠実な行為は行いません。

⑤常に公私のけじめをつけ、会社の資産・情報や業務上の権限・立場を利用しての個人的な利益は追求しません。

コンプライアンス・トップセミナー

宝グループでは、役員・事業場長・各グループ会社社長などのトップ層を対象としたコンプライアンス・トップセミナーを毎年実施しています。この研修は、コンプライアンスの推進、リスク発生の防止や発生した緊急事態への対応などからテーマを選択し、外部講師による集合研修として実施しています。宝グループにおけるコンプライアンスの浸透・定着および危機管理の強化への取り組みの一環として、今後も継続していきます。

コンプライアンスリーダー研修

宝グループでは、職場におけるコンプライアンスの推進役として、毎年、コンプライアンスリーダーを選任し、集合形式のコンプライアンスリーダー研修を実施しています。コンプライアンスリーダー研修では、特に教育したいコンプライアンスの事象に注力した講義を実施しています。そして、コンプライアンスリーダーは、コンプライアンス活動の推進の中核となって、各職場の従業員に対するコンプライアンス教育を実施しています。

上記の教育のほか、新入社員・中途入社の社員へのコンプライアンス教育や、社員にコンプライアンスに関する情報をわかりやすく伝えることを目的にイラストなどを用いたコンプライアンス啓発文書の発信などを実施しています。

このように、コンプライアンス委員会、事務局、コンプライアンスリーダーの連携によって、職場におけるコンプライアンス意識の定着に努めています。

危機管理体制

リスク回避・対応を徹底
平時の対応

職場を総点検しリスクを洗い出すことで、優先順位を付けながらリスクの防止・軽減活動を進めています。このような活動は毎年繰り返し実施し、その活動結果をコンプライアンス委員会（P.34参照）で報告しています。活動を見直しながら、さらにレベルアップした取り組みを進めていきます。

緊急時の対応

人命・身体に危険が及ぶおそれのある事態、企業の信用や資産に重大な影響が及ぶおそれのある事態など、緊急事態が発生した場合は、緊急対策本部を設置するとともに、各部署が連携し、迅速かつ的確に対応します。

事業継続計画（BCP）

大規模地震の発生により想定される被害への対策を検討し、事業継続計画（BCP:Business Continuity Plan）を策定しています。

東日本大震災の経験を踏まえ、現存の計画の実効性をさらに高めるため、事業継続計画検討委員会および事業継続計画検討部会において検討を重ね、事業継続に必要な対策を推進しています。具体的な対策として、自家発電装置導入による生産拠点での電力確保、情報伝達の確実性向上および被災時に設置するバックアップオフィスの準備などを実施しました。また、計画に基づく訓練を実施するなど実効性の確認も行っています。

一方で、身の回りの安全対策として、従来の対策に加え、重量物の低位置保管、什器・備品の転倒・落下防止策などを本社事務所・各事業場・国内グループ会社で実施しています。このような安全確保に向けた活動は引き続き実施していきます。

今後も、大規模地震以外の災害についての検討も含め、継続的に事業継続計画の改善に取り組んでいきます。

ヘルプラインの設置

社内外に公益通報窓口を設置

宝グループでは、法令違反や不正行為などを発見した場合、ただちに上司に伝え職場内で解決することを基本としています。しかし、それがうまくできない場合のために、社員からの相談や通報を受け付ける「ヘルプライン」を、社内（総務部）と社外（第三者機関）に設けています。

ヘルプラインは、「公益通報者保護法」と「ヘルプライン規程」に基づいて、相談者の匿名性・プライバシーを守り、相談したことで不利益な取り扱いを受けることがないように運用されています。寄せられた相談に対しては、秘密保持について十分に配慮した上で調査し、確認された事実関係に基づき適切に対応しています。さらに、対応した結果を相談者に報告しています。

飲酒運転防止の取り組み

アルコールチェッカーの使用

宝グループでは、コンプライアンス研修をはじめとした各種教育・研修で飲酒運転防止を強く訴えています。また、宝酒造の支社、工場では、一つの目安として業務で自動車を運転する前にアルコールチェッカーを使用してチェックを行っています。

グループ会社の取り組み　タカラ物流システム

ドライブレコーダーを活用した画像の解析サービス

タカラ物流システムは、安全の一環として近畿圏内にある複数の自動車教習所の協力のもと、ドライブレコーダー「TBR-200」を活用した画像の診断サービスを2015年4月より開始しました。これは「見えない『危険』を見える『安全』に」をコンセプトに、企業の安全・運行管理者が気付きにくく事故に結びつきやすい危険運転を抽出して、診断書を作成することで的確な指導をすることができ事故予防につながるものです。

信頼される企業であるために

コーポレート・ガバナンス

経営の透明性を高め、すべてのステークホルダーから
信頼される企業をめざします。

コーポレートガバナンスポリシー

宝ホールディングスでは、コーポレートガバナンスに対する基本的な考え方や取り組み状況について「宝ホールディングス コーポレートガバナンスポリシー」を定め、株主・投資家をはじめとするステークホルダーとの信頼関係構築や、コーポレートガバナンス体制の整備に努めています。

基本的な考え方

宝グループは、「自然との調和を大切に、発酵やバイオの技術を通じて 人間の健康的な暮らしと 生きいきとした社会づくりに貢献します」という企業理念のもと、日本伝統の酒造りの発酵技術と最先端のバイオ技術の革新を通じて、食生活や生活文化、ライフサイエンスにおける新たな可能性を探求し、新たな価値を創造し続けることによって社会への貢献を果たしています。

2011年に公表した10年間の長期経営ビジョン「宝グループ・ビジョン2020」では、酒類・調味料事業を基盤とし、バイオ事業と健康食品事業という有望な将来性のある成長事業を有する独自の強固な事業ポートフォリオをベースとし、国内はもとより海外においても事業を伸ばし、さらに環境変化に強いバランスのとれた事業構造を確立することをめざしています。また、現在取り組んでいる長期経営ビジョンの具体的な実行計画である3カ年の「宝グループ中期経営計画2016」では、各事業ごとの売上高や営業利益の業績目標に加え、

・松竹梅白壁蔵「澪」を中心とした清酒売上高の拡大
・欧米をはじめとする世界での日本食材卸網の構築
・バイオ医薬品などの製造開発支援サービス（CDMO事業）の拡大
・遺伝子治療・細胞医療における臨床開発の推進

という、重点4分野に積極的な投資を行う方針を打ち出す一方で、資本効率を意識した適切な株主還元方針として、営業利益をベースとした「みなし配当性向30%*」を目安とした配当と、状況に応じた機動的な自己株式取得の実施を公表しています。

このように、長期経営ビジョンと中期経営計画を着実に実行し、持続的な成長と中長期的な企業価値の向上を遂げるためには、株主、顧客、従業員、債権者、地域社会などのステークホルダーの立場を踏まえた上で、透明・公正かつ迅速・果断な意思決定を行うためのコーポレートガバナンス体制が必要であり、「コーポレートガバナンスポリシー」に定める具体的方針に則って取り組んでまいります。

*みなし配当性向=配当総額／(連結営業利益×(1−法定実効税率))≒30%

株主・投資家との信頼関係構築

積極的なコミュニケーション

宝ホールディングスは上場企業として、株主および投資家の皆様に正確かつタイムリーに情報開示するための社内体制を整え、経営の透明性を維持しています。

毎年5月と11月に機関投資家・証券アナリスト向けの決算説明会を開催するほか、年間を通じた個別の面談などを通じ、双方向のコミュニケーションに努めています。また、個人投資家に向けては、年数回の会社説明会を開催しています。

このほか、宝ホールディングスのウェブサイトには「IR情報」ページを設けています。最新の開示資料や財務情報、説明会資料に加え、宝グループの事業内容や経営計画などに関する情報も掲載し、グループについての理解を深めていただけるよう工夫しています。

「IR情報」ページ

株主総会の活性化に向けて

宝ホールディングスでは、株主総会が株主との建設的な対話の場でもあるとの認識のもと、株主総会における権利行使にかかる適切な環境整備を行うこととしています。

株主総会において株主が適切な判断を行えるよう、株主総会招集通知の記載内容の充実と早期発送に努めるとともに、招集通知に記載する情報をその発送より前にTDnetや当社ウェブサイトなどで電子的に公表しています。

また、議決権行使をしやすい環境づくりの一環として、インターネットによる議決権の電子行使を可能とし、あわせて議決権電子行使プラットフォームを利用しています。

コーポレートガバナンス体制

持株会社がグループの業務執行を監督

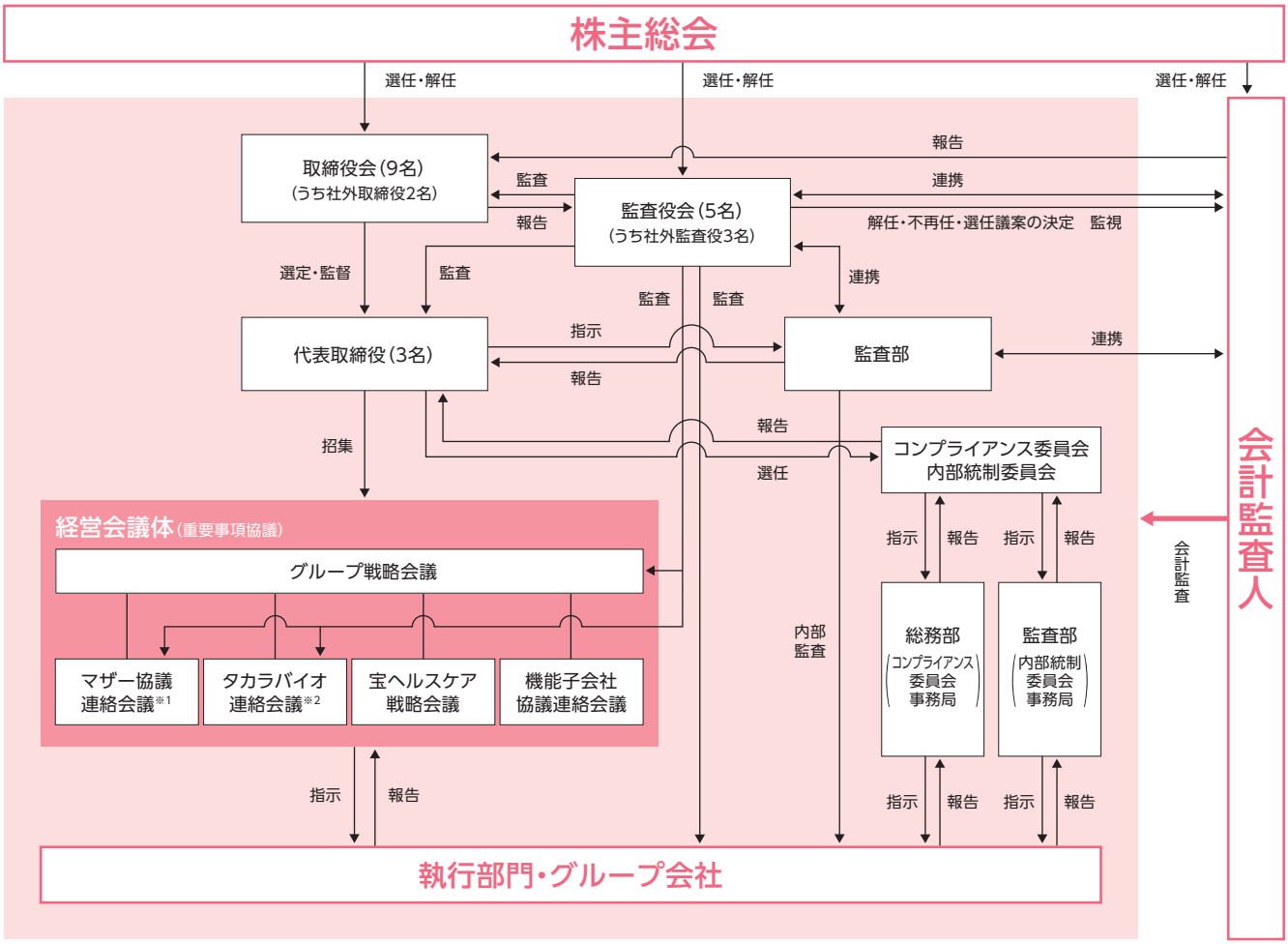
宝グループは、持株会社宝ホールディングスと、宝酒造、タカラバイオ、宝ヘルスケアなどのグループ会社45社（2016年3月31日現在）で構成されており、宝ホールディングスは、グループ各社の独自性・自立性を維持しつつ、持株会社として各社の業務執行を監督するため、「グループ会社管理規程」を制定し、以下の体制で業務を執行、監査・監督しています。

①監査役設置会社として、監査役は、取締役会などの重要会議への出席や業務・財産と重要書類の調査を通じて、取締役の職務執行を監査しています。また、株主を含むすべてのステークホルダーの視点に立脚する独立性の高い社外取締役が、監査役会と連携して業務執行の監査・監督に関与することで、経営に対する監督機能を強化しています。

②グループ全体の方針についての討議や、グループ会社間の報告を目的に、「グループ戦略会議」、「マザー協議連絡会議」、「タカラバイオ連絡会議」、「宝ヘルスケア戦略会議」、「機能子会社協議連絡会議」を開催しています。

A：IR情報

● コーポレート・ガバナンス体制
（2016年6月29日現在）



※1 マザー協議連絡会議は、宝酒造株式会社の取締役会決議事項の事前協議や業績・活動状況などの報告を目的としたものです。
※2 タカラバイオ連絡会議は、タカラバイオ株式会社の業績・活動状況などの報告を目的としたものであり、同社の取締役会決議事項の事前承認などは求めておらず、同社の自主性・独立性を妨げるものではありません。

宝酒造の歴史

社会・環境活動の歴史

- 1954（昭和29年） 全国各地で料理講習会を開始
- 1954（昭和29年） 料理番組の先駆け「タカラお料理手帳」が放送開始
- 1979（昭和54年） 「カムバック・サーモン・キャンペーン」開始

- 1984（昭和59年） 「はたちまでストップ」企業広告を実施
- 1985（昭和60年） 公益信託タカラ・ハーモニストファンドを設立
- 1985（昭和60年） 「Say No」キャンペーン実施
- 1985（昭和60年） 適正飲酒啓発パンフレット「Say No読本」を発行
- 1989（平成元年） スポーツドリンク「PADI」に、日本で初めてステイオンタブ（SOT）を採用

- 1991（平成3年） 第1回「宝クリーンcanウォーキング」を開催
- 1994（平成6年） 北海道で宝焼酎「純」、「純」レジェンドのリターナブルボトル化開始
- 1995（平成7年） 阪神・淡路大震災で支援ボランティアスタッフを派遣
- 1994（平成6年） 四万十川の清流を守ろうキャンペーン開始
- 1995（平成7年） 未成年者飲酒、飲酒運転の注意表示を開始
- 1995（平成7年） 商品に点字で「おさけ」表示を開始
- 1998（平成10年） 焼酎のはかり売り開始
- 1998（平成10年） 環境報告書「緑字決算報告書」初刊発行

- 1999（平成11年） タカラ本みりん「醇良」にはずせるキャップを採用

1842 / 1950 / 1960 / 1970 / 1980 / 1990

会社・商品の歴史

- 1842（天保13年） 酒造業開始（清酒・甘酒）
- 1912（大正元年） 寶焼酎発売
- 1925（大正14年） 寶酒造株式会社創立
- 1933（昭和8年） 清酒「松竹梅」発売

- 1957（昭和32年） タカラビール発売
- 1968（昭和43年） 松竹梅〈たけ〉発売
- 1969（昭和44年） タカラみりん「ミリパック」発売
- 1970（昭和45年） 中央研究所完成
- 1971（昭和46年） 英国トマーチン社と提携
- 1972（昭和47年） 中国酒の輸入販売開始
- 1977（昭和52年） 宝焼酎「純」発売

- 1980（昭和55年） タカラ料理酒発売
- 1983（昭和58年） 米国宝酒造株式会社設立
- 1984（昭和59年） タカラcanチューハイ発売

- 1985（昭和60年） 企業理念を制定
- 1989（平成元年） ブラントン輸入販売開始
- 1993（平成5年） 本格米焼酎「よかいち」発売
- 1994（平成6年） 環境・広報室を設置
- 1995（平成7年） 北京寛宝食品有限公司（現在の宝酒造食品有限公司）設立
- 1996（平成8年） お客様相談室を設置

2016（平成28年） 松竹梅「京のあまくち」に日本で初めて使用後の解体が容易な新紙パック容器「EP-PAKオルカット」を採用

2014（平成26年） 「リデュース・リユース・リサイクル推進功労者等表彰」で最高賞「内閣総理大臣賞」を受賞

2014（平成26年） 宝酒造「田んぼの学校」が「青少年の体験活動推進企業表彰」で審査委員会特別賞を受賞

2014（平成26年） 白河工場跡地を白河市へ寄付

2012（平成24年） 宝酒造「エコの学校」開始

2011（平成23年） 宝酒造「田んぼの学校」が企業フィランソロピー大賞特別賞を受賞

2011（平成23年） 松竹梅「天」にパウチパックを採用

2011（平成23年） 東日本大震災で被災地給水を支援

2009（平成21年） 「お酒おつきあい読本」発行

2008（平成20年） 「宝酒造杯囲碁クラス別チャンピオン戦」開催

2006（平成18年） お客様相談室のウェブサイト開設

2005（平成17年） CSR報告書「緑字企業報告書」初刊発行

2004（平成16年） 17事業場でISO14001を統合

2004（平成16年） 妊産婦飲酒の注意表示実施

2004（平成16年） 宝酒造「田んぼの学校」開始

2004（平成16年） 環境教育教材「リサイクルロード」発刊

2004（平成16年） 各地自然災害被災地でボランティア活動実施

2003（平成15年） 阿武隈川きらきらキャンペーンに協賛

2002（平成14年） ベロタクシーへの協賛開始

2000（平成12年） 地球環境大賞「地球環境会議が選ぶ優秀企業賞」受賞

1999（平成11年） 環境活動の基本理念制定

2010

2015（平成27年） 松竹梅白壁蔵「澪」〈DRY〉スパークリング清酒発売

2015（平成27年） タカラ果汁入り糖質ゼロチューハイ「ゼロ仕立て」発売

2014（平成26年） 宝焼酎「ゴールデン」発売

2014（平成26年） スペインのコミンポート社の経営権を取得

2013（平成25年） イギリスのタザキフーズ社の経営権を取得

2012（平成24年） お客様相談室 JISQ（ISO）10002マネジメントシステム構築

2011（平成23年） 松竹梅白壁蔵「澪」スパークリング清酒発売

2010（平成22年） フランスのフーデックス社の経営権を取得

2008（平成20年） 松竹梅「白壁蔵」〈生酛純米〉発売

2008（平成20年） 本格麦焼酎「知心剣」発売

2007（平成19年） 極上〈宝焼酎〉発売

2007（平成19年） タカラCANチューハイ「直搾り」発売

2006（平成18年） タカラ「焼酎ハイボール」発売

2006（平成18年） 宝ヘルスケア株式会社設立

2000

2004（平成16年） コンプライアンス委員会を設置

2003（平成15年） 松竹梅「天」発売

2002（平成14年） 宝グループ持株会社体制へ移行

2001（平成13年） 松竹梅「白壁蔵」完成

2001（平成13年） 全量芋焼酎「二刻者」発売

2001（平成13年） 企業理念の改定および行動規準の制定

2000（平成12年） 品質保証部を設置

2000（平成12年） 全工場でISO9002（現在は9001）認証取得完了

第三者意見

「緑字企業報告書2016」に対する意見

金沢大学 地域創造学類
准教授
香坂　玲

今年度の報告書の特徴として、特集が環境教育の二つの活動を取り上げている。京都において、実際の田んぼで稲作体験や生物の多様性を五感を使って体験する「田んぼの学校」、そして開催地域の実情に合わせてごみの減らす方法を学ぶ「エコの学校」が紹介されている(P.9-12)。

実は歴代の緑字企業報告書の表紙は、「田んぼの学校」の参加者によって飾られている。お気づきではない読者は、改めて本書の最初のページの右下を御覧いただきたい(P.1)。「宝は田から」という社名にかけた標語と合わせ、象徴的で非常に重要な位置づけであることが分かる。

講義や研究において、私自身も環境教育という科目を担当しており、環境教育活動と、地域の行政やステークホルダーと連携する協働について研究をしてきたが、環境教育は単に大人から子供へと知識が教えられるわけではなく、子供を通して、その両親、祖父母などの意識や行動が変わっていくプロセスでもある。田んぼでの子供の感動や体験談が、例えば、そのまま夕食の場での対話を通じ、家族という単位での教育活動の源泉にもなっていく。

「持続可能性」やサステナビリティという言葉だが、資源を持続的に利活用するという側面とあわせて、次世代の教育や福利という側面も外せない。そのなかで次世代という言葉も、世界、国、地域で考えることも重要だが、「家族」という単位にも注目が集まっている。

また世界に目を向けてみると、日本政府の提案により、国連では2005～2014年の10年を国連「持続可能な開発のための教育(ESD)の10年」に定めて活動を実施してきた。2015年11月には、国内でESDに関するユネスコ世界会議が開催され、その更なる推進に向けた方策が話し合われた。

「田んぼの学校」、「エコの学校」と、複数の領域で教育活動を展開することで、座学だけではなく、ESDが目指すところである、家庭や地域で実際に行動を起こし、持続可能な社会の実践の担い手を育成しているともいえる。また例えば「田んぼの学校」では京都府、NPO、大学生、農家といったように、二つの学校とも社外の人々が多層的に連携していることも特色になっており、これもESDの精神を引き継いでいる(P.13)。

欲をいえば、田んぼの豊かさや楽しさと合わせて、直面する危機や負の側面についてもより明確に伝えるのも一案だろう。例えば、獣害被害などは酒米の産地である兵庫県や京都府も例外ではない。「田んぼの学校」においても獣害被害の深刻さ、廃れつつある農業関連の祭事を伝え、そこから次の世代ではどのような形にしていきたいのか、考えるきっかけにしてもらえたらと思う。

特集以外では、環境負荷削減として、CO_2、廃棄物、用水使用量について、時系列で報告がなされている。今後も

このような定期的な報告と点検、施設面での効率化や更新が必要となろう（P.23-24）。改善傾向は見られるが、将来的には少量で小分けとなる消費傾向の高齢化社会の本格的な到来に備え、根本的な容器、エネルギーの対応も欠かせない。例えば、毎年の報告書を発刊することを契機に議論をしてはどうであろう。長期的な視野で長期的な環境負荷低減と資源制約のなかで、どのような社会を実現していこうとしているのか、原点に立ち返って幅広い部署で、成り行きではない、イノベーションや改善点がないか、本書を社内のコミュニケーションのツールとしても活用いただきたい。

さらに社員の多様性を確保するうえでも、女性、障がい者などが働きやすい配慮が必要であろう（P.31-33）。2014年に厚生労働省によって企業のストレスチェックと面接指導の実施が義務化されるなど、対処的な手法から、予防的な段階も含め、事業者は労働者のメンタルヘルスを含む健康や安全に配慮しなければならない傾向になってきている。将来的には、社員のための田んぼでの活動や森林セラピーへの展開も期待したい。

宝酒造には、今後も本業である自らの企業活動の実践を通し、次世代の持続可能な社会の担い手の育成を社員が誇りをもってリードすることを期待したい。その際には、地域のステークホルダーと幅広く連携しながら、次世代と協働してもらいたい。

編集方針

「緑字企業報告書2016」は、宝酒造のCSR（企業の社会的責任）に関する取り組みを、ステークホルダー（利害関係者）の皆様にわかりやすく誠実に報告することをめざして発行しています。

●対象組織：宝酒造株式会社単体の活動やデータを中心に報告しています。ただし、一部宝グループ企業の活動やデータを含みます。グループ企業を含むデータ部分については企業名を記載しています。

●対象期間：2015年4月1日～2016年3月31日

注）上記の期間以外は年度を記載します。

●発行時期：2016年7月

編集後記

本報告書では、一企業市民として、社会のさまざまなステークホルダーの皆様との関わりをご報告しています。

本年度の特集では、当社の社会貢献活動に焦点をあて、“2つの環境教育活動～宝酒造「田んぼの学校」&宝酒造「エコの学校」～”と題して、次世代の子どもたちに自然保護や空容器問題の取り組みを伝える当社の環境教育プログラムを紹介しています。

今後もよりよい活動を進めていくために、皆様方からの当社の企業活動、環境活動に対するご意見をお待ちしています。よろしくお願い申し上げます。

編集体制

・編集委員会（広報部門、環境部門、総務部門、人事部門、事業管理部門、営業部門、商品開発・宣伝部門、購買・製造部門、海外事業部門、品質保証部門、お客様相談部門、宝ホールディングス株式会社IR部門 計15名）

・編集責任者：中尾雅幸（環境課長）

発行責任者：松本博久（環境広報部長）

●お問い合わせ先

宝酒造株式会社

環境広報部　〒600-8688 京都市下京区四条通烏丸東入　TEL:075-241-5186　FAX:075-241-5126

・この印刷物は環境に配慮し、植物油インキ・水なしオフセット印刷で制作しています。
・この用紙費用の一部は『日本赤十字社』に寄付されております。
・見やすいユニバーサルデザインフォントを採用しています。